

官報

號外

昭和十年一月二十七日

○第六十七回衆議院議事速記録第七號

帝國議會

昭和十年一月二十六日(土曜日)

午後一時十九分開議

議事日程 第六號

昭和十年一月二十六日

午後一時開議

第一 昭和十年度一般會計歳出ノ財源

ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

(政府提出) 第一讀會

第二 昭和七年法律第一號中改正法律

案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲

公債發行ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

第三 臨時利得稅法案(政府提出) 第一讀會

第四 國際文化事業ニ關スル經費支辨

ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第五 造幣局ノ廳舎、工場其ノ他ノ用

ニ供スル建物及其ノ附屬設備ノ新營

費ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第六 東京高等農林學校及函館高等水

産學校ノ創設ニ伴フ帝國大學特別會

計及學校及圖書館特別會計ノ關涉ニ

關スル法律案(政府提出) 第一讀會

一 國務大臣ノ演說ニ對スル質疑

(前會ノ續)

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲
茲ニ掲載ス)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

學生生徒飲酒禁止法案

提出者

丸山 浪彌君 星島 二郎君

栗原彦三郎君

郷又ハ町村祿高ニ對シ公債證書給與ニ關
スル法律案

提出者

寺田 市正君 藏國三四郎君

東郷 實君 宮川 一貫君

盲人保護法案

提出者

風見 章君 野田文一郎君

司法代書人法中改正法律案

提出者

立川 平君 金井 正夫君

青木雷三郎君

伊佐鐵道豫定線決定ニ關スル建議案

提出者

肥前鹿島佐世保間省營自動車運輸開始ニ

關スル建議案

提出者

諫早早岐間ガソリンカー運轉開始ニ關ス

ル建議案

提出者

佐保 畢雄君

銑鐵輸入關稅免除其ノ他ニ關スル建議案

提出者

蔭山 貞吉君 原口初太郎君

上原平太郎君 森田 福市君

小林 絹治君 田尻 生五君

阪神間ニ大防波堤構築ニ關スル建議案

提出者

蔭山 貞吉君 砂田 重政君

中井 一夫君 山口 義一君

上田 孝吉君 森田 政義君

板野 友造君

御影芦屋川間ニ防潮堤構築ニ關スル建議

案

提出者 蔭山 貞吉君

棉花耕作助成ニ關スル建議案

提出者

佐藤庄太郎君 菅野善右衛門君

篠原 義政君

(以上一月二十五日提出)

一議員ヨリ提出セラレタル質問主意書左ノ

如シ

中南米諸國ニ對スル通商貿易ニ關スル質

問主意書

提出者 玉置吉之丞君

治鮮政策ニ關スル質問主意書

提出者

朴 春 琴君

(以上一月二十五日提出)

一昨二十五日衆議院規則第十五條但書ニ依

リ議長ニ於テ議席ヲ左ノ通變更セリ

八二 福田關次郎君

九一 勝田 永吉君

九二 清水留三郎君

一五〇 杉本國太郎君

二一一 前田房之助君

二二三 小池 仁郎君

三四〇 佐藤洋之助君
三三三 小林 絹治君

○議長(濱田國松君) 是ヨリ會議ヲ開キマ
ス、御諮リヲ致シマス、第七部選出建議委
員平川松太郎君ヨリ、右常任委員辭任ノ申
出ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリ
マセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、仍テ之ヲ許可致シマス、其部ノ諸君ハ
速ニ補選選舉ヲ行ハレ、御届アラントコトヲ
希望致シマス

更ニ御諮リヲ致シマス、豫算委員長ヨリ
本日本會議中豫算委員會ヲ開キタイトノ申
出ガアリマシタ、尙ホ今後本會議中ト雖
モ、同委員會及分科會ヲ開キタイトノコト
デアリマス、之ヲ許可スルニ御異議アリマ
セヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマ
ス、許可スルコトニ致シマス
尙ホ御諮リヲ致シマス、議員胎中楠右衛
門君ヨリ辭表ガ提出サレテ居リマス、之ヲ
朗讀致サセマス

(書記官朗讀)

辭任願

衆議院議員 胎中楠右衛門

私儀都合ニヨリ衆議院議員辭任仕度候間

御許可被下度此段及御願候也

昭和九年十二月六日

右 胎中楠右衛門

衆議院議長秋田清殿

○議長(濱田國松君) 此辭職願ハ衆議院規

則第百六十八條ニ依リマシテ、討論ヲ用キ

ズシテ其許否ヲ決シマス、辭職ヲ許可スルニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ許可スルコトニ決シマシタ。是ヨリ日程ニ移リマス、日程第一及第二ハ便宜上一括議題トナスニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程第一、昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、日程第二、昭和七年法律第一號中改正法律案、右二案ヲ一括シテ第一讀會ヲ開キマス——大藏大臣高橋是清君

第一 昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

(政府提出) 第一讀會

第二 昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(政府提出) 第一讀會

昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第一條 政府ハ昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外昭和十一年度ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金ト通ジテ前條ノ制限

第二條 政府ハ昭和十年度一般會計歳出豫算翌年度繰越額ノ財源ニ充ツル爲他ノ法律ニ依リ起債シ得ル金額ノ外昭和十一年度ニ於テ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依ル公債又ハ借入金ト通ジテ前條ノ制限

額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三條 前二條ノ規定ニ依ル公債ノ發行價格差減額ヲ補填スル爲必要アル場合ニ於テハ前二條ノ制限以外ニ公債ヲ發行シ又ハ借入金ヲ爲スコトヲ得

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年法律第一號中改正法律案

昭和七年法律第一號中左ノ通改正ス

「六億五千十萬圓」ヲ「八億二千六十萬圓」ニ改ム

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(國務大臣高橋是清君登壇)

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ昭和十年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、昭和十年度一般會計ニ於テ、既ニ成立シテ居リマス公債法ニ依リ公債ヲ募集スル金額、竝ニ滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲發行スル公債金額ノ外ニ、歳入ノ不足ヲ補填スル爲五億六千五百八十餘萬圓ノ公債發行ヲ必要トスルコトハ、曩ニ昭和十年度總豫算ノ大要ヲ説明致シマシタ際ニ申述ベテ置イタノデアリマスガ、其發行ノ爲ニハ、新ニ起債ノ權能ヲ得ルコトガ必要デアリマス、尙ホ昭和十年度ノ歳出豫算ニ於キマシテモ、其内若干ノ金額ハ、例年ノ如ク翌年度ニ繰越サル、結果ニナルノデアラウト存ゼラレマスガ、其繰越額ノ財源ハ、必シモ昭和十年度内ニ起債スルコトヲ必要ト致シマセヌ爲メ、翌年度ニ於テ募集シ得ルコト、爲スヲ適當ト認メマス、右ノ理由ニ依リ本法法律案ヲ提出致シタ次第デアリマス、何卒御審議ノ上協賛セラレン

コトヲ希望致シマス

日程第二ノ、昭和七年法律第一號中改正法律案提出ノ理由ヲ説明致シマス、滿洲事件ニ關スル經費ニ關シマシテハ、去ル第六十一回、第六十二回、第六十四回及第六十五回帝國議會ノ協賛ヲ經、其財源ニ充ツル爲公債ヲ發行スルコトヲ得ル法律ノ成立ヲ見マシテ、之ニ依リ昭和九年度マデノ經費ヲ支辨シ得ル次第デアリマスガ、昭和十年度分ノ經費トシテ、更ニ一億八千四百三十餘萬圓ヲ必要トスルノデアリマス、右ノ内特別會計ノ分ハ、全部普通財源ヲ以テ支辨スルノデアリマスガ、一般會計ノ分ハ滿洲國防費分擔金受入等ニ相當スル金額ヲ差引キタル一億七千四十餘萬圓ハ、今日ノ財政狀況竝ニ本經費ノ性質ニ鑑ミマシテ從來ノ如ク之ヲ公債財源ニ依ルコト、致シマシタ爲メ、現行滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル法律中ノ發行限度ヲ、改正增加スルノ必要ガアリマスノデ、本法法律案ヲ提出致シタノデアリマス、何卒御審議ノ上協賛セラレンコトヲ希望スル次第デアリマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許可致シマス——中亥歳男君

(中亥歳男君登壇)

○中亥歳男君 昨ハ只今議題トナッテ居リマスル公債發行ニ關スル法律案ニ對シマシテ、總理大臣竝ニ大藏大臣ニ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、公債發行ニ關聯致シマシテハ、今日マデ多數ノ先輩諸君ガ種種御質疑ニ相成リマシテ、殆ド盡キテ居ルヤウニ思フノデアリマス、唯一二ノ點ニ付テ極メテ簡單ナル質疑ヲ致シタイト存ジマス

去ル二十二日以来、此議場ニ於キマシテ各派ノ諸君ガ御述べニナリマシタ御意見ヲ拜聴致シマシタガ、歸スル所ハ、昭和十年度ノ豫算ガ軍事費ニ偏シテ、全ク跛行的ノ豫算デアルト云フコトニ、意見ガ一致サレテ居ルヤウニ思フノデアリマス、私モ此點ニ對シテハ全ク同感デアリマス、農村ニ對スル問題ハ、農村ノ知識ニ乏シイ私トシテハ、茲ニ言及ヲ致シマセヌガ、私ノ痛切ニ感ジマスル一事ハ、我國ノ貿易振興ニ關シ、或ハ又他ノ産業開發ニ關スル商工省關係ノ豫算ガ、餘リニモ貧弱デアルトハ、私衷心ヨリ遺憾ニ感ジテ居ル次第デアリマス(拍手)政府ニ於カレマシテモ、軍事費以外ノ各省ノ豫算ガ不十分デアルト云フコトハ、十分御承知ノヤウデアリマス、其點ハ豫算編成當時ニ各省ノ御提出ニナリマシタ豫算案ヲ見マシテモ明ナ事デアリマス、大藏大臣ハ二三日前、我黨ノ川崎君ノ質問ニ御答ニナリマシタ、其一節ニ、非常ニ軍事費ニ偏シタ豫算ダト言ハレルガ、併ナガラ今日マデ軍事費ガ過大デアルト言ハレタ人ハ一人モ無イノデアル、故ニ自分ハ是ガ所謂國民ノ輿論デアルト考ヘテ居ルノダト云フコトヲ仰セニナリマシタ、成程大藏大臣仰セノ通り、今日マデ軍事費ガ過大デアル、多キニ過ギルトハ何人モ申サナイヤウデアリマス、併ナガラ跛行的豫算デアルト云フコトハ、要スルニ釣合ガ取レテ居ラヌト云フコトデアラウト思ヒマス、然ラバ是ノ釣合ヲ取ルト云フコトハ、要スルニ短キ方ニ對シテ追加豫算デモ御出シニナッテ、ソレヲ長クシテ釣合ヲ取ルト云フコトガ、適當ナ方法デアアルノデアリマス、若シ財源ノ關係カラ致シマシテ、此釣合ガドウシテモ取レ

スト云フナラバ、矢張一方ノ長イ方ガ長キニ過ギテ居ルト云フコトハ、是ハ明カナル事實デアリマス(拍手)斯様ナコトハ大藏大臣トシテ疾ニ御承知ノ答デアリマスカラ、此間御話ニナリマシタコトハ、アレハ恐ラク大藏大臣一流ノ皮肉ヲ仰セニナツクモノデアラウト私ハ存ジテ居ルノデアリマス、免ニモ角ニモ歸著スル所ハ、財源ノ如何ト云フコトニ歸著スルノデアリマス、赤字公債ノ問題、赤字公債ノ限度、是ハ現在ノ我國ト致シマシテハ最モ重大ナ問題デアリマシテ、謂ハハ國政ノ中心ヲ成スモノト申シテ宜カラウト思フノデアリマスガ、私考ヘマスルニ、此所謂公債財源ト云フ問題ニ對シテ、朝野共之ニ對スル檢討ニ關シテ甚ダ熱意ヲ缺イテ居ルヤウナ感じガ致スノデアリマス、此財源ヲ究メズシテ徒ニ施設ノ大少ヲ論ズルコトハ、聊カ本末ヲ顛倒致シテ居ルヤウナ感じモ致スノデアリマス、六十六議會ニ於キマシテモ、色々赤字公債ノ限度ト云フヤウナ方面ニ對シテ、豫算委員會ニ於テモ相當質疑ガアツタノデアリマスガ、大藏大臣ハ遂ニ此點ニ對シテ明答ヲ與ヘズニ終ツタノデアリマス、或時ニハモウ是レ以上ハ公債ノ漸減主義ヲ採ラナケレバナラスト云フヤウナ御意見モ申サレタノデアリマス、又或時ニハ、場合ニ依ツテ國家ニ必要ナコトガアルナラバ、尙ホ相當額ノ公債ヲ發行スルコトハ敢テ差支ナイト云フヤウナ、御話モサレテ居ルノデアリマス、私ハ大藏大臣ガ過日貴族院ノ加藤政之助氏ノ質問ニ對シテ、御答ニナリマシタ其一節ニ於キマシテ、二ツノ公債發行ノ限度トデモ申シマスカ、二ツノ具體的事實ヲ擧ゲテ御話ニナツタコトヲ拜聞致シマシタ、其一ツハ、

我國ノ通貨ノ價值ガ下落ヲ致シ、サウシテ公債トカ或ハ株券トカ云フヤウナモノ、投資ヲ、國民ガ好マザルヤウニナツテ、所謂金カラ物ヘト云フ傾向ニナツタ時ニハ、公債ガ消化サレナイ、モウ一ツハ、産業ガ隆盛ニナツテ、サウシテ公債ニ投資スルヨリ産業資金ニ投資スルト云フヤウナ、傾向ヲ取ツタ場合ニハ公債ガ消化シナイ、此二ツハ何レモ公債政策ノ行詰ツタ時ヲ指摘サレテ居ルノダト思フ、ソコデ私共ガ大藏大臣ニ聽カント欲スル所ハ、斯様ナ場合ガ何時來ルト云フヤウナ點ヲ御尋致スノデアリマセヌ、唯私ハ一國ノ大藏大臣トシテ、所謂我國ノ財政ヲ預ツテ居ル大藏大臣ノ御心持トシテ、將來ノコトハ免モ角ト致シマシテ、少クトモ十年度ニ於テハ、下ノ程度ノ赤字公債ヲ發行スルノガ、經濟界ノ事情其他カラ見テ自分ハ適當デアルト思フト云フ、此大藏大臣ノ御信念ガ伺ヒタイノデアリマス、若シ臨時議會ノ際ニ於テ、大藏大臣ガ是等ノコトニ對シテ、十分大藏大臣トシテノ信念ヲ披瀝サレテ居リマシタナラバ、私ハ彼ノ政友會カラ御提出ニナリマシタ一億八千萬圓ト云フヤウナ、大キナ爆彈動議モ飛出シテ居ラナカッタカモ知レヌト思フノデアリマス、假ニ出タト致シマシテモ、恐ラク政府ト意見ノ一致スルヤウナ動議デアッタラウト思ヒマス(拍手)私ハ此際政府ト致シマシテハ、此赤字公債ノ所謂限度ト申シマスルカ、信念ト申シマスルカ、是等ニ對シテ十分政府ノ所信ヲ明カニシテ載ク必要ヲ痛感スルノデアリマス

又モウ一ツハ豫算分捕——豫算分捕ト申シマスルト、甚ダ惡イ言葉デアリマスルガ、近頃非常ニ豫算編成ノ際ニ對シマシテ、各省ノ要求ト、結局出來上ル所ノ豫算トニ非常ナ相違ガアルノデアリマス、私ハ此豫算編成ノ根本ト赤字財政ノ關係ニ付テ、總理大臣並ニ大藏大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、過日此議場ニ於テ政友會ノ大口氏ガ御話ニナリマシタ、十年度ノ豫算編成當時ニ各省カラ御提出ニナリマシタ額ト、比較致シマスルト云フト、四分ノ一乃至甚シイノハ八分ノ一ニ査定サレテ居ル、斯様ナコトハ今日マデ未ダ會テ見ザル所デアツテ、或ル意味カラ言ヘバ、内閣ノ不統一ヲ意味スルノデアルト云フコトヲ此席デ仰セラレタノデアリマスガ、私ハ最モ同感デアリマス、私ハ以前カラ此豫算分捕ト云フコトノ弊ハアリマスルケレドモ、近頃著シク其弊ガ助長サレテ居リマスルガ、一體ドウシテ斯ウ云フ結果ニ相成ツタノカト思ウテ、色々考ヘテ見ルノデアリマスルガ、其所謂原因ノ一ツトシテ、普通ナレバ豫算編成ニ對シテハ、先ツ國家ノ收入ト云フモノヲ一ツノ目標ト致シテ豫算ヲ編成致スノデアリマス、然ルニ今日ノ財政ハ殆ド赤字財政デアリマシテ、赤字公債ヲ基礎トシテ豫算ヲ編成スルノデアリマシテ、赤字公債ハ、謂ハハ限度ガアツテ無イヤウナモノデアリマス、所謂目標ノ無イ豫算編成ト云フコトガ、豫算分捕ノ弊ヲ助長シタ一ツノ理由デナイカト私ハ思フノデアリマス、私共ガ豫算編成當時新聞記事ヲ通ジテ靜ニ考ヘテ見マスルト云フト、各省ノ大臣諸公ハ、一體我國ノ現在ノ財政ガ、ドウ云フ風ニナツテ居ルト云フコトスラモ、御分リニナラヌノデアラウカト云フヤウナ感じスラ致スノデアリマス、日々其當時ノ新聞記事ニ依ツテ、如何ニモ各省ノ豫算ノ要

求振リガ、全ク緣日商人的ノモノデアルト云フヤウナ點ニ付テ、心アル國民ハ新聞ヲ見テ常ニ眉ヲ聚メテ居ルノデアリマス、(拍手)是ハドウシテモ私ハ國家ノ爲ニ改善シナケレバナラヌト思ヒマス、嘗テ昭和九年度ノ豫算編成當時デアツタカト思ヒマスルガ、高橋大藏大臣ハ陸海軍ノ豫算ニ對シテ折衝ヲ重ネテ居リマシタ際、一夜ニシテ九千万圓ト云フ大金ヲ投リ出シテ、國民ヲアツト言ハセタコトガアルノデアリマス、是ハマダ最近ノ事柄デ國民ノ記憶ニ新ナル所デアリマス、斯様ナコトモ私ハ豫算分捕ノ弊ヲ助長セシメタル、一ツノ原因デナイカト考ヘテ居ルノデアリマス、(拍手)

之ヲ要スルニ、ドウシテモ財政計畫ヲ——豫算編成ヲ致ス場合ニ於キマシテ、一ツノ目標ヲ作ルト云フコトハ、私ハ最モ必要デアルト思フノデアリマス、先刻モ申上ゲマシタヤウニ、今日我國ニ取リマシテハ、此赤字公債ト云フ問題ハ非常ナ重大ナ問題デアリマシテ、所謂政治ノ中心ト申シテ宜カラウト思ヒマス、其點カラ申シマスルト、私ハ斯ウ云フコトヲ希望致スノデアリマス、今後赤字財政ハ相當續クモノト思ヒマスルガ、今後ハ豫算編成ニ先チマシテ、大藏省ト各省ガ豫算ノ折衝ニ入リマスル以前ニ於キマシテ、總理大臣ハ財政當局ノ意見ヲ徵サレ、四圍ノ情勢ニ鑑ミテ、先以テ其年度ノ赤字公債ノ發行額ハ、此程度ガ適當デアルト云フ一ツノ茲ニ目標ヲ拵ヘテ置クノデアリマス、サウシテソレヲ閣議ニ諮ツテ、一ツノ政府ノ根本方針ト致シテ、然ル後ニ大藏省ト各省トガ豫算ノ折衝ニ掛ルト云フコトニ致シマシタナラバ、私ハ恐ラク豫算分捕ノ弊ガ幾ラカ是正サレルノデヤナイカト深く信ジテ

居ルノデアリマス(拍手)此點ニ對シテ總理大臣並大藏大臣ノ御所見ヲ伺フテ置キタイノデアリマス

次ハ利得稅ノ問題デアリマスガ、私ハ此種ノ主張ヲ齋藤內閣以來致シテ居リマスル關係上、少額ナリト雖モ此利得稅ガ本議會ニ提出サレマスルコトハ、衷心賛意ヲ表シテ居ルノデアリマス、申ス迄モナク、此財政收支ノ均衡ヲ圖リマスルニハ歲出ヲ減ジマスルカ、或ハ増稅其他ノ方法ニ依ッテ增收ヲ圖リマスルカ、公債ヲ發行スルカ、此ノ以外ニ方法ハナイノデアリマス、齋藤內閣以來今日マデ所謂高橋財政ハ赤字公債一本デ、財政計畫ヲ樹テ、參ッタノデアリマス、私ノ痛切ニ感ジマスル事ハ、財政計畫ニ對シテ消極トカ積極トカ、此消極的、積極的、何レニ偏スルコトモ私ハ禁物デアルト思ヒマス、財政計畫ニ對シテハ積極消極ノ調和コソ洵ニ望マシイコトデアルト深信ジテ居ルノデアリマス(拍手)今日ノ財政ヲ眺メマスル時ニ一層其感シヲ深ク致ス者デアリマス、積極ニ爲スベキコト、消極ニ爲スベキコト、自ラ區別ガアリマス、私ハ敢テ公債ヲ恐レル者デアリマス、今日我國ハ既ニ公債ガ百億ニ達セント致シテ居リマスルケレドモ、日進月歩ノ我國ノ現狀カラ致シマシテ、決シテ百億ノ公債モ恐レル者デアリマセヌ、ケレドモ只今申上ゲマシタヤウニ、餘リニ積極ニ偏シ、餘リニ消極ニ偏スルト云フコトハ禁物デアリマス、積極ハ常ニ放漫ニ流レ易イノデアリマス、消極ハ其反對ニ萎靡ニ傾キ易イノデアリマス、私ノ考ヘマスニ、一方デ積極的ニヤルト同時ニ、又一方デハ多年沈滞シテ居ル行政ナドノ整理刷新ヲヤツテ、僅ノ金額デモ無駄ヲ排

除スルト云フコトハ、是ハ如何ナル場合ト雖モ必要ナコトデアルト、私共ハ信ジテ居ルノデアリマス、消極的ノ意味ニ於テ爲スベキコトモ相當アルト、私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、此意味ニ於テ利得稅ナドモ私ハ非常ニ贊成ヲ致シテ居ル、政府ハモウ一步進シテ利得稅ノミデナク、資産階級即チ言葉ヲ換ヘテ申シマスルナラバ、不勞所得ヲ澤山持ッテ居ル人、是等ノ人ニ對シテ、何トカノ方法ニ依ッテ此非常時ノ課稅ヲ致ス御意思ガアルカドウカ、私ハ是ハ最モ今日必要ナコトデアルト考ヘテ居ルノデアリマス、我國ガ今日多大ナ赤字公債ヲ出シテ、非常時財政ヲ編成セナケレバナラヌヤウニナツテ居リマスル原因ハ、申ス迄モナク滿洲事變ガ其原因ノ主ナルモノデアリマス、御承知ノヤウニ滿洲ニハ今尙ホ農村ノ子弟、是等ガ一家ヲ顧ミズシテ滿洲ガ生命線ヲ守ッテ居リマス、國家ノ爲ニ御奉公致シテ居リマス、此點カラ申シマスルナラバ、内

此點ニ留意サレマシテ、私ハ多クヲ申シマセヌガ、是非斯ウ云フ方面ノ政策ヲドシノ御實行アランコトヲ、私ハ切望ニ堪ヘヌノデアリマス、此點ニ對シ總理大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、以上三點ニ對スル誠意アル御答辯ヲ、御願シタイト存ジマス(拍手)

(國務大臣岡田啓介君登壇)

○國務大臣(岡田啓介君) 中君ノ御質問ニ御答致シマス、赤字公債ニ付キマシテハ、私モ段々之ヲ減ラシテ行クコトガ望マシイコト、考ヘテ居リマス、又豫算ノ分捕主義ハイカスト云フコトデアリマシタガ、是モ御同感デアリマス、但シ此度提出シマシタ豫算ハ、歲入歲出共ニ閣議ノ決定ヲ經テ居ルノデアリマシテ、四圍ノ事情ニ顧ミマシテ、最モ適當ニ按配シタト考ヘテ居ルノデアリマス、ソレカラ財産稅ノ如キモノヲ設ケル考ヘナイカ、斯ウ云フ御尋デアリマシタ、政府ハ稅制ノ徹底的整理ヲ致シタイト存ジマシテ、目下努力中デアリマス、併ナガラ今直チニ財産稅ヲ設ケル意思ヲ有ッテ居リマセヌ

(國務大臣高橋是清君登壇)

然ナコトデアリマス、斯様ナコトガ金額ノ多少ニ拘リマセズ、國民思想ニ好影響ヲ與ヘルコトハ、蓋シ大ナルモノガアルト私ハ信ジテ居ルノデアリマス(拍手)岡田內閣ハ齋藤內閣ノ延長デアルヤウニ存ジテ居ルノデアリマス、齋藤內閣ハ五・一五事件ノ後ヲ承ケテ、爾來人心ノ安定ニ努力ヲシナケレバナラヌ立場ニ在リナガラ、是等ノコトニ對シテハ少シモ實行シナカッタノデアリマス、唯考慮ト調査トニ依ッテ日ヲ過シタノミデアリマス、ドウカ岡田內閣ニ於キマシテハ

○國務大臣(高橋是清君) 只今中君ノ質問ニ對シテ、私ニ關スル限リ御答ヲ致シマス、前ニ御斷リヲ致シテ置キマスガ、臨時利得稅ノコトニ付テノ御尋デアリマシタガ、是ハ後刻上程サレマシテ説明ヲ致シテ、ソレカラ後ニ願ヒタイト思ヒマス、洵ニ仰セノ筋道ハ御尤デアリマス、歲出ヲ歲入デ賄ッテ足りナイ所ヲ赤字公債ヲ發行シテ、サウシテ歲出歲入ノ「バランス」ヲ取ッテ置クト云フノガ、此二三年ノ我國ノ財政ノ狀態デアリマス、ソコデ御尋ハ私ガ貴族

院本會議ニ於キマシテ、加藤君ノ質疑ニ對シテ御答ヲ致シタ公債ノ限度ニ付テニツノ原因、即チ場合ガアルト云フコトヲ答ヘテ置キマシタガ、ソレニ依ッテ尙ホ此十年度ノ豫算ニ付テモ、公債ハ十年度ハ是ダケヨリ出セナイ、是ダケガ限度ダト云フコトヲ豫メ大藏大臣ガ決メテ置イタナラバ、豫算ノ分捕ノ弊害ト云フコトモ無クナルダラウト云フ御意見ノヤウニ承リマシタ、此公債ヲ十年度ニ於テ是ヨリ以上、發行ハ出來ナイト云フコトノ根據ヲ得ルコトハ容易デナイノデアリマス、私ニハ其根據ヲ得ルコトガドウシテモ出來マセヌ、且ツ數字ノ上カラ見マスレバ、皆サンノ御氣付ノ通り、如何ニモ海陸軍ノ經費ガ數字ノ上デハ多ク現ハレテ、サウシテ普通ノ行政費ニ至ッテハ、或ハ其半少シ上位ニシカナラヌ、是ニ於テ軍事ヲ偏重スル豫算ナリト云フヤウナ御考ガアラレルヤウニモ察セラレルノデアリマス、勿論數字ノ上カラ見マスレバ、サウ現レマス、併シ一應大藏省トシテ各省カラ請求サレル豫算ニ對シテハ、勿論金高ニモ十分ノ注意ヲ拂ヒマスガ、先以テ第一ニ重キヲ置クノハ、國家ノ見地カラシテ此當面ノ時勢ヲ顧ミ、事柄ノ輕重如何ト云フコトニ重キヲ置クノガ、今日採リ來ッタ方針デアリマシテ、其事柄ノ輕重ニ依ッテ、成ベク國家ノ財力ノ耐ニル範圍ニ於テ之ヲ納メタイト云フ考ヲ以テ、一應ノ査定ヲ致スノデアリマス、元來各省カラ請求スル所ノ豫算額ト云フモノハ、是ハ一體表向キニナルベキ筈ノモノデハナイノデアリマス、各省內ニ於テハ局ガアリ、課ガアリ、其局課ヲ受持ッテ居ル人ハ、唯自分ノ平生執ッテ居ル所ノ仕事ニ重キヲ置イテ、斯ウアリタイ、斯

ウ擴張シタイト云フ考ヲ起スノハ、是ハ當然ノ話デアル、ソレガズツト出テ來ルト云フコトハ、恐ラク皆サン御承知ノ譯デアル、此缺點ヲ補ハントシテ、往年先以テ豫算ノ編成ニ當テハ、閣議ニ於テ各省大臣カラ其省内ノ仕事ニ付テノ緩急輕重ヲ能ク計リ、而シテ大藏大臣ニ就テ其裁入ノ如何ト云フコトヲ檢討シ、又公債發行ノ消化力ト云フモノヲ檢討シテ、其上デ是ガ今日ノ我國ノ國民ノ財力デアルト、之ヲ顧ミズシテ公債ヲ濫發シタラバ、是ハ由々シキコトニナルカラ、成ベクサウ云フコトノナイヤウニシタイト云フ、皆一緒ノ考ヲ以テ國策ヲ定メル、其定ツ所ニ依ツテ豫算ヲ編成スレバ、今日諸君ノ言ハレルヤウニ、各省請求ノ數字ト、豫算ニ決ツタ數字トノ距リガ多イ、或ハ各省ニ豫算ノ分捕ノ弊ガアルト云フヤウナ苦情ガナクナル譯ナンデアル、奈何ニセシ、ソレハ今日マダサウ云フコトハ出來ナイノデアリマス、ソレ故ニ一應私ガ前申シタヤウナ趣旨ニ從ツテ、第一ニ其時ノ國ノ財力ト云フモノヲ計リ、ソレニ依ツテ各省カラ請求シテ來ル豫算ノ事柄ニ付テ、輕重緩急ヲ各省ノ事務當局ト相談ヲシテ、凡ソノ見當ヲ付ケ、サウシテ豫算ヲ組ム、先ヅ査定案ト云フモノハ即チソレナンデアル、而シテソレガ閣議ニ出テ、初メテ其處デ閣議ノ決スル所トナルノデ、各省カラ出タ豫算ノ要求書ハ、アレハ一體ナラバ表向キニ之ヲ出シテ、議論ノ種トスベキモノデハナカラウト思フノデス、即チ現レタ所ノ豫算ガ、諸君ノ御手許ニ廻ツテ居ル所ノ此豫算ガ、今日ノ内閣ノ總意ヲ現ハスモノデアリマス、大體此豫算ニ付テノ御話ハ是デ濟ンダと思ヒマスガ、唯往年ノ事ヲ例ニ引カレテ、大

藏大臣ガ一夜ニシテ澤山ナ金ヲ陸海軍ニ出シタト云フヤウナコトガアリマスガ、是ハ能ク其當時ノコトヲ御調べニナツタ分リマセウガ、即チ是ガ内閣ニ於テノ總意ノ現ハレデアル、大藏省デ査定ヲ一應シタ、ソレヲ閣僚ガ集ツテ議スル時ニ於テ、是ダケノモノヲ殖ヤサナケレバナラスト云フコトニナツテ殖ヤシタノガ、慥カ千万圓カソコラデシタラウ、ソレダケノ、千万圓ヲ増加シテ見タ所デ、私ノ其當時ノ考ニ於テハ、我國ノ財政ニ救フベカラザル難儀ガ起ルトハ思ッテ居ラナカッタノデアリマス、ソレデハハドウカ、時々此言葉ガ出ルヤウデスガ、此問題ハドウカ當時ノコトヲ能ク御調べニナツテ、國民ニ誤解ヲ起サシメザルヤウニ願ヒタイノデアリマス(拍手)

○中亥歳男君 自席カラ御許シテ願ヒマス
○議長(濱田國松君) 中亥歳男君

○中亥歳男君 只今私ノ質問ニ對スル兩大臣ノ御答ハ、遺憾ナガラ満足スル程度ニ至リマセヌ、殊ニ大藏大臣ノ御答辯ニ對シテハ、私ノ御尋シタコト、少シ誤解ガアルヤウナ點モアリマスルケレドモ、本日重ネテ此處デ御尋スルコトヲ避ケマシテ、豫算委員會其他ニ於テ、改メテ又伺フコトニ致シタイト思ヒマス、私ノ質問ハ是デ打切りマス
○議長(濱田國松君) 岸田正記君
(岸田正記君登壇)

○岸田正記君 私ハ只今上程相成リマシタ滿洲事件費支辨ノ爲ニ發行スル所ノ公債、此追加ニ付テノ法律案ニ關聯致シマシテ二三ノ質疑ヲ試ミ、大藏大臣、陸軍大臣並ニ拓務大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト存ズル次第デアリマス、滿洲事件ニ付キマシテハ、政府當局或ハ議會ニ於キマシテモ、之ヲ外交

上ノ問題、或ハ植民政策ノ問題、或ハ又軍事問題ニ付キマシテハ、幾多議論ヲ重ネラレテ參ツテ居リマスルケレドモ、此事件費ト我國ノ財政或ハ經濟ノ關係ニ付キマシテハ、多クノ口ヲ緘シテ之ヲ語ラザルノ狀態ニアルト云フコトハ、私ハ寧ロ之ヲ奇異ニ感ジテ居ツタ次第デアリマス、然ルニ偶、去ル一月八日ノ本年最初ノ閣議ノ席上ニ於キマシテ、大藏大臣ガ此滿洲事件費ノコトニ付テ重大ナル發言ヲ試ミラレ、陸軍當局ニ對シテ警告ヲ發セラレ、更ニ又對滿投資ニ對シテハ之ニ統制ヲ加フル必要ガ將來アルト感ズルト云フコトニマデ、言及セラレタト云フコトハ、此事ガ新聞紙上ニ報道セラレマスルヤ、獨リ我國ノ經濟界ニ非常ナル衝動ヲ與ヘタノミナラズ、滿洲國上下、殊ニ又滿洲開發ノ第一線ニ活躍致シテ居リマスル所ノ在滿同胞、是等ノ人々ニ對シテ非常ナル衝動ヲ與ヘタト云フコトハ、諸君ガ大抵御存ジノ通りデアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ二三、疑トスル所ヲ質シタイト存ズル次第デアリマス

則チ去ル八日ノ閣議ノ席上ニ於キマシテ大藏大臣ノ御提言トシテ、新聞紙上ニ傳ヘラレテ居ル所ヲ見マスルコト云フト、大藏大臣ハ今日マデ滿洲事件ノ爲ニ多クノ國費ヲ費シテ居ル、即チ今日デハ一箇年ニ此事件費ノミニ於テ滿洲國內ニ於テ支辨セラレル金額八千万圓、之ニ民間ノ投資支出ヲ加算スルト云フト、一億四千万圓カラノ巨大ナル金額ガ滿洲ノ地ニ投ゼラレテ居ルヤウナ狀態デアラガ、滿洲國ト雖モ是ハ一ツノ外國デアラカラシテ、國際收支ノ關係カラ之ヲ見ル時ニハ、取りモ直サズ滿洲國ヘノ資金移動ハ海外拂デアル爲ニ、我國ノ財政ノ歲入歲出ノ均衡ノ上ニ非常ナル影響ヲ及ボシテ居

ルノミナラズ、又是ガ金融界ニ及ボス衝動、或ハ又爲替相場ニ及ボス影響、是等ノ點ヲ考ヘル時ニ非常ニ憂フベキ現象ヲ來スモノデアラガ故ニ、陸軍當局ハ宜シク滿洲ノ地ニ於テ支辨スル所ノ事件費ノ使途ニ付テハ、十二分ノ吟味ヲ致シテ、出來ルダケノ節減ヲ致スヤウニト云フコトノ御警告デアッタト云フコトデアリマス、更ニ又漏レ聞キマスル所ニ依ルト、來議會ニ於テハ、之ヲ四五千万圓程度節減スル所ノ、御意嚮アノヤニ承ツテ居ルノデアリマスルガ、更ニ又此對滿投資ノ問題ニ付キマシテハ、矢張事件費ト同ジヤウニ一種ノ海外拂デアルカラシテ、同様ニ我國ノ財政及經濟ノ上ニ非常ナル影響ヲ及ボス問題デアラガ故ニ、此問題ニ付テモ將來統制或ハ制限ヲ加ヘル必要ガアルカノ如キ御内意ヲ、御漏ラシメナツテ居ルト云フコトヲモ承ツタノデアリマスルガ、此事ハ非常ニ大キナル所ノ問題デアリ、特ニ日滿經濟「ブロック」ノ上ニ、日本ノ經濟界ノ最高首腦ノ方ヨリ此言ヲ漏ラサレタト云フコトハ、大キナル影響ヲ及ボス問題デアリマスルガ故ニ、私ハ果シテ此新聞紙上ニ傳ヘラレタル如キ内容ノ事ヲ當日ノ閣議ノ席上ニ於テ、大藏大臣ヨリ御提言ニナツタ事實ガアルカ否カト云フコトニ付キマシテ、先以テ大藏大臣ニ御尋致シタイノデアリマス、滿洲事件費ノ爲ニ費サレテ居ル所ノ今日マデノ莫大ナル金額ハ、恐クハ六億數千万圓ニモ及ブデアラウ、私共ガ當議會ニ於キマシテ審議致シテ來マシタ此事件費支辨ノ爲ノ公債、是ガ年々追加ニ追加ヲ重ネラレテ來タ、此審議ノ跡ヲ顧ミマシテモ、第六十一議會ニ於テ六千七百五十万圓、第六十二議會ニ於テ一億九千二百五

十萬圓、第六十四議會ハ二億三千萬圓、第六十五議會ハ一億五千九百十萬圓、更ニ今日上程相成リマシタ所ノ追加發行案ニ於テハ、一億七千五百萬圓ノ公債發行ノ追加ヲ重ネラレテ來テ居ルノデアリマシテ、此莫大ナル所ノ財政上ノ負擔ガ、如何ニ我國ノ財政金融ノ上ニ影響ヲ及ボスカト云フコトニ付テハ、大藏大臣ト其感ヲ同ジウシ、之ニ對シテノ心配ヲ有ツモノデアリマスケレドモ、併ナガラ一面カラ考ヘテ見マス、既ニ當議場ニ於テモ論議ニ論議ヲ重ネラレマシタ如ク、農村ノ窮迫、或ハ中小商工業者ノ窮乏、是等ノ問題ニ付キマシテ論ゼラレタルガ如ク、一國ノ財政ハ、財政ノ爲ノ財政デアツテハ相成ラス、單ニ歲入歳出ノ均衡ヲ保ツト云フコトノミガ、財政ノ要諦デハナイト云フコトハ、茲ニ改メテ申上ゲルマデモナイ次第デアリマス、然ラバ滿洲事件費ニ關スル限り、果シテ今日ノ日本ノ此財政上ノ負擔ガ、適切ナルモノデアアルカドウカト云フコトハ、單ニ財政ノ歳入歳出ノ均衡ト云フ此一點ノミニ付テ、觀察スルコトヲ許サレナイ事情デアリマシテ、先以テ果シテ今日ノ滿洲國內ニ於ケル治安ノ狀態、又四隣國境ニ於ケル國際情勢ノ關係、是等ガ此軍事費ヲ要求スルモノデアアルカドウカ、此實情ニ即シテ檢討シ、審議シナクテハナラヌト思フノデアリマス

私共ハ多年滿洲ニ在住致シ、又最近モ頻頻ト往復致シテ居リマス關係上、今日ノ滿洲國內ノ治安ノ狀態、或ハ又滿「ソ」、滿支、是等ノ國境方面ニ於ケル情勢ニ付キマシテ、多少ノ認識ヲ有ツテ居ル積リデ居リマスガ、昨日今日ノ新聞紙上ニモ傳ヘラレテ居リマス如クニ、アノ「ポイル」ノ

ル」湖ノ北端ニ於ケル蒙古軍トノ衝突問題、或ハ察哈爾省境ニ於ケル日支ノ衝突問題、斯ウ云フヤウニ頻々トシテ滿「ソ」ノ國境、或ハ滿支ノ國境ノ情勢ハ一日ノ倫敦ヲ許スコトガ出來ナイヤウナ急迫シテ居ル今日マデノ狀態、又滿洲國內ニ於ケルマシテ、出沒端倪ヲ許サル所ノ、アノ匪賊ノ跳梁跋扈、是等ノ現狀ヲ私共ガ見マスル時ニ、今日ノ滿洲國ノ現狀ト云フモノハ、未ダ斷ジテアノ建國ノ理想デアリマスル所ノ、王道樂土ノ完成既ニ成レリト云フコトハ、言ヒ得ザル狀態デアリマシテ、實ニ此資源開發ノ第一線ニ活躍致シテ居リマス同胞ハ、枕ヲ高クシテ寢ミ、胸ヲ安ンジテ働キ、其生命財產ガ十二分ニ安全ニ確保サレテ居ル狀態ニ在ルトハ言ヒ得ナイ狀態デアリマス、此時ニ方リマシテ、茲ニ是等ノ人々ガ我ガ皇軍ノ熱意アル援護、日本政府ノ熱意アル支援、之ニ對シテ如何ニ大キナル信頼ヲ囑フヤウニ居ルト云フコトハ、茲ニ申上ゲル迄モナイ次第デアリマスルガ、此事態ヲ直視シナガラ單ニ財政上ノ見地カラ、實際收支ノ關係カラ、之ヲ理由ト致シマシテ、此重大ナル所ノ滿洲國警備、治安維持、國境保安、是等ノ問題ニ付テノ經費削減ト云フコトヲ建前ト致シマシテ、此建國工作ノ半バニシテ其手ヲ緩メルガ如キ狀態ニ相成リマスル時ニ、果シテ結果ハ如何デアラウカ、之ヲ私共及在滿同胞一同ハ憂慮ヲ致シ、此大藏大臣ノ御提言ニ對シテ不安ノ念ヲ持ツテ居ル次第デアリマスルガ、御伺致シタイコトハ、陸軍大臣ハ果シテ此大藏大臣ノ御所見、御趣旨ノ下ニ、能ク今日ノ滿洲國ノ治安ヲ維持シ、數千萬圓ノ事件費削減ヲ爲シテ、以テ能ク三千万民衆、特ニ又數十萬ノ在滿

同胞ノ生命財產ヲ確保致シテ、速ニ王道樂土ノ建設ヲ完成シ得ルノ御確信ガアルカドウカ、此點ニ付キマシテ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス

民ト云フコトガ、如何ナル經過ヲ辿ツテ進展致シテ來テ居リマセウカ、拓務省ハ今日マデ昭和八年ノ二月ニ永豐鎮方面ニ對シテノ第一次自衛移民四百九十六人、第二次自衛移民四百七十人、第三次自衛移民五百名、是等千五百人足ラズノ移民事業ヲ行ツタニ過ギナイノデアリマシテ、其他ハ政府事業ト致シマシテハ、移民ノ上ニ殆ド何等ノ業績ヲ擧ゲテ居ナイ、而モ此自衛移民ノ狀況ニ付テ觀察致シマスニ、之ヲ茲ニ詳シク申上ゲルコトハ差控ヘマスルガ、今日如何ナル狀態ニナツテ居ルカ、其農民移植ノ土地ヲ選定スル上ニ誤ガアリ、又經濟條件ニ付テノ考慮ニ等閑視サレタ點ガアツタ、是等ノ事情ガ相俟チマシテ、是等ノ人々ガ如何ニ困難ナル狀況ニ置カレテ居ルカ、一箇月ニ僅カ數圓ノ生活費ニ甘シ、惡質ノ氣候風土ト闘ヒ、匪賊ニ脅カサレ、斯ウシタ困難ナ事情ノ下ニ、漸ク之ヲ支ヘテ居ルヤウナ狀態デアアルコトヲ認識シマスル時ニ、私ハ今日マデノ自衛移民必シモ成功ナリト言ヒ得ナイノデアリマス、此失敗ノ跡ニ鑑ミマシテ、關東軍方面、或ハ滿洲國當路、或ハ拓務省方面色々ト研究ヲシ、特ニ移民會議ノ答申ニ基キマシテ、遂ニ移民會社ヲ作ツテ積極的ニ十分ノ成案ヲ以テ、之ニ當ルト云フコトニ相成ツタヤニ承テ居リタノデアリマス、即チ日滿合辦ノ特殊會社ガ五千萬圓ノ資金ヲ以テ、二十五箇年間ニ二十五萬人ノ農業移民ヲ行フ、サウシテ此五千萬圓ノ資金ハ、日本政府ガ二千萬圓持株ヲ致シ滿洲國政府ガ一千萬圓ノ現物出資ヲ行ヒ、残り二千萬圓ヲ民間投資ニ俟ツト、斯ウ云フ成案デアツテ、此移民事業ノ成績ヲ見タ上デ、更ニ進ンデ積極的ニ豫ネタノ理想デアリマスル所ノ

更ニ又獨リ事件費ノミナラズ、軍事費ノミナラズ、政府財政ノ負擔トナルベキ滿洲國內ニ於テノ支辨、此事ガ又國際收支ノ上ニ惡影響ヲ及ボス問題デアルガ故ニ、之ヲ出來得ル限り節減セネバ相成ラスト云フ藏相ノ、御提言デアツタカノヤウニ承ツテ居ルノデアリマスガ、私共ハ此點ニ付キマシテハ今日マデノ豫算審議ノ過去ヲ顧ミ、又滿洲國內ニ於ケル政府ノ積極的ノ事業、是等ヲ一々檢討致シテ見マシテモ、殆ド目星シキ何物ヲモ發見スルコトハ出來ナイ、唯一ツ茲ニ問題ト相成ルノハ、拓務省ノ事業ト致シテ今日マデ爲サレタ所ノ移民事業、此問題デアリマス、滿洲國ニ對シテノ移民、我國ノ人口問題ノ解決、此事ガ如何ニ此滿洲國建設ニ對シテ大キナル國民的期待デアアルカト云フコトハ、茲ニ申上ゲルマデモナイノデアリマス、即チ特ニ又農村ノ今日ノ疲弊困憊、過剩人口ニ惱ンデ居ル我國ノ現狀カラ申シマシテ、アノ農耕可能地一千五百萬町歩、森林ハ三千五百萬町歩、滿鐵調査課ノ發表スル所ヲ見マシテモ、優ニ一億二千万人ノ人口ヲ收容シ得ル可能性アリト爲サレテ居ル所、之ヲ縱シ北滿地方ニ於ケル所ノ農業上ノ不利ナ條件ヲ考慮ニ入レマシテモ、少クトモ六千万人以上ノ人口ガ、十二分ニ收容シ得ルデアラウト云フ、此滿洲ニ對シテノ農業移民ト云フモノガ、如何ニ大キナル國民的期待デアツタカト云フコトハ、諸君モ御存ジノ通りデアリマス、然ルニ建國以來此人口問題ニ對シテノ解決移

民ト云フコトガ、如何ナル經過ヲ辿ツテ進展致シテ來テ居リマセウカ、拓務省ハ今日マデ昭和八年ノ二月ニ永豐鎮方面ニ對シテノ第一次自衛移民四百九十六人、第二次自衛移民四百七十人、第三次自衛移民五百名、是等千五百人足ラズノ移民事業ヲ行ツタニ過ギナイノデアリマシテ、其他ハ政府事業ト致シマシテハ、移民ノ上ニ殆ド何等ノ業績ヲ擧ゲテ居ナイ、而モ此自衛移民ノ狀況ニ付テ觀察致シマスニ、之ヲ茲ニ詳シク申上ゲルコトハ差控ヘマスルガ、今日如何ナル狀態ニナツテ居ルカ、其農民移植ノ土地ヲ選定スル上ニ誤ガアリ、又經濟條件ニ付テノ考慮ニ等閑視サレタ點ガアツタ、是等ノ事情ガ相俟チマシテ、是等ノ人々ガ如何ニ困難ナル狀況ニ置カレテ居ルカ、一箇月ニ僅カ數圓ノ生活費ニ甘シ、惡質ノ氣候風土ト闘ヒ、匪賊ニ脅カサレ、斯ウシタ困難ナ事情ノ下ニ、漸ク之ヲ支ヘテ居ルヤウナ狀態デアアルコトヲ認識シマスル時ニ、私ハ今日マデノ自衛移民必シモ成功ナリト言ヒ得ナイノデアリマス、此失敗ノ跡ニ鑑ミマシテ、關東軍方面、或ハ滿洲國當路、或ハ拓務省方面色々ト研究ヲシ、特ニ移民會議ノ答申ニ基キマシテ、遂ニ移民會社ヲ作ツテ積極的ニ十分ノ成案ヲ以テ、之ニ當ルト云フコトニ相成ツタヤニ承テ居リタノデアリマス、即チ日滿合辦ノ特殊會社ガ五千萬圓ノ資金ヲ以テ、二十五箇年間ニ二十五萬人ノ農業移民ヲ行フ、サウシテ此五千萬圓ノ資金ハ、日本政府ガ二千萬圓持株ヲ致シ滿洲國政府ガ一千萬圓ノ現物出資ヲ行ヒ、残り二千萬圓ヲ民間投資ニ俟ツト、斯ウ云フ成案デアツテ、此移民事業ノ成績ヲ見タ上デ、更ニ進ンデ積極的ニ豫ネタノ理想デアリマスル所ノ

百萬、百五十萬、或ハソレ以上ノ移民ヲド
ンドシヤデ行カウト云フ此案ヲ、昨午漸ク
得ラレタ、サウシテ是ガ今議會ニ提案セラ
レタト云フコトヲ、私共ハ彼ノ地ニ於テ承ッ
テ居ッテ、非常ナ期待ヲ以テ之ヲ見テ居ッ
然ルニ最近ニ於テ私共ガ承ル所ニ依ルト、
矢張是モ財政ノ都合上、豫算ノ都合上其二
千萬圓ノ政府負擔ガ難色アリ、今議會ニ於
テ是ガ提案ヲ見ルヤ否ヤ、未ダ確定セザル
狀態デアリカノ如クニ、私共ハ漏レ聞イテ
居ルノデアリマス、是ハ果シテ何タルコト
デアリマセウ、大藏大臣ノ滿洲ニ對スル政
府財政負擔ノ支出、民間投資、是等ガ日本
ノ國際收支ノ上ニ惡影響ヲ及ボスト云フ此
見地カラ、是等ニ對シテモ斯ノ如キ結果ヲ
招來シテ來テ居ルモノデアリマスアレバ、
私ハ之ニ對シテハ甚ダ遺憾ノ意ヲ表セザル
ヲ得ナイノデアリマス、泰山鳴動シテ鼠一
匹ト云フコトガアリマスケレドモ、極東ノ
天地震動致シテ、僅ニ千五百人足ラズノ移
民事業ガ、拓務省ノ事業デアッタト云フガ
如キハ、洵ニ奇怪千萬ナコトデアリ、洵ニ
鐵血ノ犧牲ヲ拂ツタ國民ノ、此滿洲事件ニ對
スル覺悟ニ照シ合セテ見テモ、遺憾千萬ナ
ル現狀デアルト私ハ思フノデアリマス（拍
手）拓務大臣ハ果シテ今議會ニ、此移民法
案ヲ敢然トシテ御提案ニナル御意思アリヤ
否ヤ、又大藏大臣ハ之ニ對シテ追加豫算
ヲ御認メニナル御意嚮デアリカ、此點ニ付
テ御所見ヲ承リタイノデアリマス、是ハ小
サキ問題デアリカノ如ク思ハレルカモ知ラ
スケレドモ、一事ガ萬事、此國際收支ト云
フ觀點ノミヲ以テ致シテ、政府ガ斯ノ如キ
折角ノ大キナル滿洲國建設ト云フ此當面セ
ル非常時局ニ當ッテ、是等ノ重要ナル事業ヲ

スラ差控ヘルト云フガ如キハ洵ニ日滿經濟
「ブロック」ノ見地カラ申シマシテモ、遺憾
千萬ナル狀態デアルト考ヘマスルガ故ニ、
之ニ付テ明確ナル御返答ヲ承リタイノデア
リマス
更ニ當日ノ閣議ノ席上ニ於キマシテ、大
藏大臣ハ滿洲事變費、其他政府財政ノ負擔
トナル滿洲國內ニ支辨サル、事變費ト等シ
ク、對滿投資即チ滿洲ニ對シテ民間投資モ、
所謂滿洲國ハ外國デアリカラシテ、矢張國
際收支ノ上ニ惡影響ヲ及ボシ、爲替相場、
日本ノ金融界、公債發行、是等ノ點ニ對シ
テ色々ノ影響ヲ及ボス點ガアルカラシテ、
之ニ對シテモ將來關係當局ハ一應大藏當局
ノ諒解ヲ得タ上デ、資金移動ヲ爲サシメル
ヤウニ致シ、對滿投資ニ對シテハ相當ノ統制
ヲ加フル必要ガアルト云フ御意見ヲ、御提
言ニ相成ツカノヤウニ承ッテ居ルノデアリ
マスルガ、是レ果シテ事實デアルト致シマ
スレバ、是モ亦山々シキ問題デアリ、如何
ニ此問題ニ對シテ滿洲方面ニ大キナ衝動ヲ
與ヘテ居ルカト云フコトハ、茲ニ申上グル
マデモナイ次第デアリマス、私共ハ此點ニ
付キマシテハ、單ニ日本ノ金融、日本ノ財政
是等ノ見地ノミヨリシテ、此對滿投資ト云
フコトヲ律スベキデハナイト信ジテ居ル、
此大藏大臣ノ御提言、是ハ寧ロ私共ハ反對
ノ結果ヲ來スモノデアリ、滿洲國ニ取ッテハ、
又日滿經濟「ブロック」ノ具現上、非常ニ憂フ
ベキ影響アル御提言デアルト、私ハ信ジテ
居ル次第デアリマスルガ、先ヅ對滿投資ノ
上ニ今後統制ヲ加ヘ、隨テ以テ制限ノ事
情ガ加味セラレルト云フコトハ、第一ニハ
折角ニ今日マデ發展シ、進展致シテ來テ居
リマスル所ノ滿洲ノ資源開發、産業發展ト

云フコトニ對シテ非常ナ暗影ヲ投ジ、支障
ヲ來スモノデアルト、私ハ斯ク信ジテ居ル
滿洲國ノ今日ノ資源開發ノ狀態、日本ノ滿
洲ニ對スル投資ノ狀態、是等ニ付キマシテ
ハ、茲ニ多クヲ申上ゲル時間ヲ有シマセヌ、
唯今日マデノ事情ヲ極ク簡單ニ觀察致シテ
見マシテモ、昭和七年ノ三月一日滿洲新國
家ノ耀カシキ誕生以來、其事變ノ當初ニ於
テ國民ガ大キナ期待ヲ有チ、此滿洲ニ對シテ
ノ日本ノ發展、資源ノ開發ト云フコトニ對
シテ、此大キナル期待ガ果シテ實現出來、
裏切ラレナカッタデアラウカ、私ハ遺憾ナガ
ラ此狀態ハ此最初ノ期待掛聲ヲ裏切ルモノ
ガアッタト云フコトハ、打消スコトヲ得ナイ
事實デアアルコトヲ悲シム者デアリマス、即
チ之ニ付キマシテハ色々ノ事情モゴザイマ
スルケレドモ、唯私共彼ノ地ニ於テ多少
ノ事業ニ携ッテ居リマスル者ノ立場カラ
考察致シマシテモ、一言ニシテ之ヲ盡シマ
スレバ、第一ニハ何ト云フモ滿洲國ノ企
業ト云フコトハ、必シモ企業條件ニ於テ有
利ナル點ノミデハナイト思フ、即チ水力電
氣ガ缺乏致シテ居ル、或ハ又運賃ガ割高デ
アル、治安ガ十分ニ維持サレテ居ラナイ、
是等ノ點ヲ考ヘマスルトキニ、企業條件必
シモ有利デナイ、第二ニハ此滿洲國ト日本
ト此兩國ノ同種産業ノ對立、第三ニハ、
殊ニ一番ニ大キナ支障ハ何ト申シマシテ
モ、御存ジノヤウニ此滿洲國ニ於テノ經濟
機構ニ對シテノ一般ノ人々ノ不安、此問題
デアリマス、即チ滿洲國ノ經濟機構、之ニ
付キマシテハ、今日マデ幾多ノ議論ガ盡サ
レテ居ル、唯當初一般ノ民間ノ人々ガ感ジ
マシタル所ノモノハ、滿洲國ニ於テハ軍部
ノ方々ハ、極端ナル所ノ國家社會主義ヲ行

フノデハナイカ、極端ナル所ノ統制經濟ヲ
行フノデナイカ、此聲ガ充チ滿チタト云フ
コトハ、諸君モ御存ジノ通りデアアル、即チ
之ヲ實際ノ實情ニ照シテ考ヘテ見マシテ
モ、建國滿一箇年目ニ於キマシテ、經濟建
設綱要ナルモノガ發表サレタ、其中ニ於キ
マシテハ、此經濟建設ニ對シテノ軍部、否
滿洲國當路ノ四大指導原理ガ發表サレテ居
ルノデアリマス、其中味ハ一々申上ゲルコ
トハ差控ヘマスルケレドモ、第一ニハ滿洲
國ノ經濟發展ニ付テハ、其利益ヲ一部ノ階
級ニ壟斷セシメルコトナクシテ、普ク大衆
ニ之ヲ分ケ與ヘネバナラス、第二ニハ極端
ナル所ノ無統制ナル資本主義ノ弊害ノ排除
ヲ期シ、重要ナル所ノ經濟部門ニ對シテ
ハ、國家的ノ統制ヲ加ヘル必要ガアル、第
三ニハ機會均等門戸開放、第四ニハ日滿ノ
經濟ノ提携、相互扶助ト云フ四大方針デア
リマスケレドモ、之ニ付テハ色々ト解釋ガ
サレ、特ニ此四大原理ノ精神ハ成程宜イケ
レドモ、事實ニ於テハ之ヲ獨裁的ニ無軌道
的ニ擅行シ、極端ナル統制經濟國家社會主
義ニ於テ實現致シテ、斯クシテ滿洲國ニハ
資本家入ルベカラズノ立札ヲ立テルモノデ
アルト、斯ノ如ク解釋サレタノデアリマ
ス、私共ハ之ニ對シテハ或ル程度マデ異論
ヲ有ッテ居ル、即チ成程此廣漠タル所ノ滿
洲ノ野ニ國家百年ノ經濟體系ヲ樹テル、白
地ニ初メテ色々染成スガ如キ、此經濟大綱
ヲ樹テル上ニ於キマシテハ、高所大所ノ見
地カラ、規格アリ統制アル所ノ大計畫ヲ以
テ臨ミ、統制ヲ保ツ必要ガアルト云フコト
ハ、言フマデモナキ次第デアリ、特ニ今
日ノ滿洲ノ權益、是ハ洵ニ日清日露ノ戰
役、又今回ノ滿洲事變、是等十萬ノ精靈、

二十數億ノ國帑ヲ犧牲ニ致シタ此國民鐵血ノ犧牲ノ賜デアルト云フコトヲ思ヒマスルトキニ、之ニ依ツテ得タル所ノ經濟的ノ利益ヲ、獨リ資本家階級ニ獨占セシムルト云フコトハ、社會正義ノ上カラ言フテモ許スベカラザル事デアリマシテ、之ニ對シテ軍部否滿洲國當路ガ、右ノ如キ指導精神ヲ以テ立ツテ居ル經濟大綱ヲ樹立シタト云フコトハ當然ノ事デアリマス、私共之ニ對シテハ衷心ヨリ贊意ヲ表シテ居ル、唯、併ナガラ此精神ハ立派デアルケレドモ、此指導精神ヲ實現シ、此指導原理ヲ實際ニ運用スル上ニ當リマシテ、經濟ニ深キ知識ナキ一部ノ特殊階級ノ人々ガ、餅ハ餅屋ニ委サズシテ獨裁的ニ、無軌道のニ、極端ナル所ノ統制經濟、或ハ甚シキ國家社會主義的ノ色彩ヲ帶ビタリ方ヲ致シマスと云フト、茲ニ本當ニ經濟ノ原理ニ即シナイヤリ方ニナツテ來ル、即チ言フ迄モナク利潤ノナイ所ニハ一厘ノ資本モ赴カナイ、利益ノナイ所ニハ一ツノ企業、一ツノ投資モ行ハレル筈ガナイノデアリマス、即チ此資本本然ノ動向性ヲ無視スルガ如キ、此危シカシイ、如何ナル事ヲ仕出カサレルカモ分ラナイト云フ感じノアル、不安ナル所ノ經濟機構、此事情ノ下ニ於キマシテハ大資本家モ、小資本家モ、亦一切ノ企業家モ、此處ニ資本ヲ投ジ、此處ニ事業ヲ興スト云フコトニ付テ、大キナル逡巡ヲ感じタノモ亦已ムヲ得ナカッタ結果デアリマス、此結果ハドウ現ハレタカ、折角大キナル所ノ計畫ヲ樹テ、經濟建設ノ大綱ヲ發表ラシテ、店ハ開イタガ、お客サシガ來スト云フヤウナ狀態ニ相成ッタノデアリマス、即チ之ヲ投資ノ實際ノ數字ニ依リマシテモ、當時滿洲國ニ對シテ

ノ投資セラレタ資本、企業ト云フモノハ、ドウ云フ狀態デアッタカ、僅ニ三井、三菱カラノ二千萬圓ノ滿洲中央銀行ニ對シテノ借款、或ハ建國公債三千万圓、或ハ又滿鐵新株ノ第一回、第二回ノ拂込六千万圓、同社債八千万圓、僅ニ是等ノ軍部ノ名譽、或ハ又滿鐵ノ信用ヲ通ジテ集メ得タ所ノ資金ノミガ投セラレタルニ過ギズシテ、其他ハ殆ド見ルベキモノガナイト云フ狀態ニ相成ッタノデアリマス、是デハ相成ラス、折角アレダケノ國家的犧牲ヲ拂ッテ滿洲ノ資源開發ト、日滿經濟「ブロック」ト云フ大キナ所ノ目標ニ進マウト思ッテ居タニモ拘ラズ、ソレデハ當初ノ期待ガ外レテ居ル、コシナ筈デハナカッタ、此處ニ氣ガ付キマスルヤ、軍部否滿洲國政府當路モ、深ク鑑ル所ガアッタノデアリマス、即チ机上ノ理想的計畫、是ノミデハ經濟ノ實際ハ相立タヌモノデアアル、今日マデ誤リ傳ヘラル、ガ如ク、又ソレガ眞實デアッタカノ如キ此指導精神、之ヲ獨裁的ニ、無軌道のニ發揮致シタノデハ、到底本當ノ資金ヲ集メルコトガ出來ナイ、企業ヲ興スコトガ出來ナイ、資源ノ開發ハ不可能デアルト氣ガ付キマスヤ、茲ニ態度ヲ改メル所ガアリ、サウシテ實際ノ滿洲ニ於ケル企業ニ付キマシテモ、公營事業、免許事業、或ハ民間ノ自由企業、是等ノ區別ヲハッキリ致シマシテ、民間トモ膝ヲ交ヘテ互ニ能ク理解シ合フヤウナ機會ヲ作り、金融資本家或ハ企業資本家、事業家ガ勇敢ニ滿洲國ニ對シテ投資セヨ、安ジテ事業ヲ興シテ貰ヒタイ、此事ニ付テ隔意ナキ諒解ヲ仕合フ機會ヲ屢、作ラレ、私共モ亦其席ニ一二出席シタコトモアリマスガ、斯クシテ漸ク本當ノ滿洲國當路

ノ精神モ分リ、當初ニ傳ヘラレタ如キ眞相ノモノデハナイト云フコトモ漸クハ分ッタ結果ガ、段々ト滿洲ニ對シテノ投資熱ト云フモノモ起ツテ來マシテ、遂ニ今日マデ實ニ計畫中ノモノ、又設立サレタモノ、是等ノ事業會社ノミニ於キマシテモ、其數ハ二百十七、五億ノ資本ニ垂ント致シテ居ル、昨年中ニ於キマシテ滿洲國公司法ニ依リテ、實業部ニ設立届出ト相成ッタモノダケデモ二十六社、投資額一億四千三百六十萬圓、斯ウ云フヤウナ狀態ニ相成リマシテ、前途ニ對シテ洋々タル光明ヲ認メルコトガ、出來ルヤウナ狀態ニナツテ來テ居ルノデアリマス、サリナガラ之ヲ歷然タル過去ノ狀態ニ付テ考ヘテ見マシテモ、徒ニ極端ナル獨裁的ナ無軌道のナ統制經濟、資本主義ノ修正、斯ウ云フヤウナヤリ方ヲ致シテハ、到底滿洲ノ資源開發ハ不可能デアアル、資本家ハ惧レテ入レルモノデハナイト云フコトダケハ明確ト相成ツテ居ル、而モ如何ニ緩和サレタリトハ云ヒナガラ、日本國內ノ今日ノ經濟形態機構、又各國ノ經濟機構、是等ト比較致シテ見マスレバ、滿洲國內ニ於キマシテハ相當嚴肅ナル、相當手嚴シイ所ノ統制經濟ニ相成ツテ居ルト云フコトハ、打消スコトノ出來ナイ事實デアアル、而モ此事業其モノガ極端ナル統制規格ノ下ニ律セラレテ居ル、此事情ノ上ニ對シテ更ニ日本カラノ投資、日本カラノ資金ヲ移動シテ事業ヲ起スト云フ投資、其モノニサヘ統制ヲ加ルト云フガ如キ事實ガ加ハリマスルニ至リマシテハ、果シテ其結果ハドウデアアルカ、又々建國當初ノ事情ノ如クニ逆轉致シマシテ、投資ハ牽制サレ、事業ハ興ラズ、折角今日基礎ヲ固メ、前途ニ光明ヲ認メテ來タ

モノガ、又々不安ノ狀態ニ立還ルノデハナカラウカト云フコトガ、大藏大臣ノ御提言ニ對シテノ滿洲方面ノ非常ナル不安デアリマス、私共ハ之ヲ思ヒマス時ニ、大藏大臣ハ果シテ如何ナル信念ヲ以テ御提言ヲ爲サレタノデアアルカ、滿洲方面ノ懷イテ居ル所ノ此憂ハ、眞ニ杞憂ニ過ギナイノデアアルカドウデアアルカ、此點ニ付キマシテ願クハ御腹藏ナキ御所見ヲ御漏シ下サツテ、サウシテ速ニ吾々ノ不安ヲ一掃願ヒタイ、斯クシテ滿洲三千万ノ民衆、又開發ノ第一線ニ活躍ヲ致シテ居リマス同胞ガ、初メテ安心シ得ルノデアリマスカラ、ドウゾ此點ニ付キマシテ大藏大臣ノ御高教ヲ仰ギタイノデアリマス

更ニ又大藏大臣ノ御意見ナリト傳ヘラレル所ヲ拜聽致シマス、對滿投資ハ取りモ直サズ海外拂デアアルカラ、國際收支ノ上ニ惡影響ヲ及ボス、即チ輸入超過ト同一ノ結果ヲ來スモノデアアルガ故ニ、將來統制ヲ加ヘネバナラヌト云フガ如キ御意見デアアルカノヤウニ承ツタノデアリマスガ、私共此點ニ付キマシテハ、寧ロ輸入ノ關係ニ於キマシテハ、反對ノ意見ヲ持チ、此御提言ニ對シテ諒解ガ出來ナイノデアリマス、滿洲國ニ對シテノ日滿經濟「ブロック」過程下ニ於キマシテノ貿易ノ狀態、是ハ詳シク申上グル必要モアリマセヌガ、極ク簡單ニ之ヲ一瞥致シテ見マシテモ、御存ジノ如ク滿洲國ハ年久シイ間、所謂萬年輸出超過國デアッタ、然ルニ事變以來段々ト情勢ガ變ツテ參リマシテ、今日デハ輸入超過ノ國ニ相成ッタ、輸入ガ段々殖エテ來テ、昭和八年以來ハ輸入超過國ト相成ッタノデアリマス、而モ滿洲國ノ輸入、此大部分ヲ占メ、非常ナル勢ヲ以

テ物資ヲ滿洲國ニ仕向ケテ居ルモノハ日本
デアリマス、之ヲ滿洲國ノ貿易統計ニ付テ
考ヘテ見マシテモ、御存ジノ如クニ昭和八
年度ニ於キマシテノ滿洲國ノ輸入ト云フモ
ノハ、五億一千五百萬圓幣圓ニ相成ツテ居ル、
其中デ日本カラノ輸出、日本カラノ仕向ケ
ガ六割五分七厘、即チ三億三千八百萬圓カ
ラヲ占メテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤ
ウニ滿洲國ト云フモノハ、日本ノ輸出貿易
ノ上カラ見マスルト云フト、亞米利加ニ亞
イデノ大キナル仕向地ニナツテ居ル、而モ滿
洲國ヘ日本カラ輸出サレル所ノ商品、此内
容ヲ點檢致シテ見マスルト云フト、第一ニ
ハ建設材料、是ハ前年度ト比較シテ見マシ
テモ、實ニ一二六%カラノ激増ヲ致シテ居
ル、衣料品、食料品、是等ガ之ニ亞イデ六
三・四%ノ増加ト相成ツテ居ルノデアリマス
ガ、此現象ハ何ヲ物語ルカ、取リモ直サズ
日本カラ滿洲國ヘノ投資、滿洲國ヘ之ニ
依ツテ企業ガ勃興シテ來タ、此結果ガ鐵道デ
アルトカ、或ハ道路デアルトカ、或ハ建築
デアルトカ、其他有ユル所ノ建設事業ガ起ツ
テ來テ、此需要ニ應ジテ日本カラ建設材料
ガ、斯ノ如キ激増ノ數字ヲ以テ輸入サレテ
來タノデアリマス、又其結果ガ人口ノ増加
ト相俟ツテ食料品、衣料品ノ増加ト相成ツテ
居ル、此貿易ノ數字カラ考ヘテ見マシテ
モ、今日滿洲ノ經濟建設工作ノ半バニシ
テ、建國工作ノ半バニ致シマシテ、日本ノ
國際收支ノ關係、唯此一點ヲ建前ト致シテ
之ニ對スル投資ニ統制ヲ加ヘ、制限ヲ加ヘ
ル如キ事情ニ相成リマスルト云フト、立ロ
ニ致シマシテ日本ヨリノ輸出ハ激減ヲ致シ
テ來ルノデアリマス、是ハ多クヲ申上ゲヌ
デモ明デアル、之ヲ滿洲國ノ貿易代金ノ支

拂ノ數字ノ上カラ申シマシテモ、唯一言ニ
シテ盡キマスルガ、昨年ノ一月カラ七月マ
デノ滿洲國ノ貿易ノ支拂、是ハ金銀ヲ以テ
移出支拂サレタモノハ、僅カ三十萬圓幣圓
ニ過ギスト云フコトデアリマス、此莫大ナ
ル輸入ヲ爲シナガラモ、僅ニ三十萬圓幣圓
ニシカ過ギナイ金銀ノ輸出ト云フモノハ、
何ヲ物語ルカ、取リモ直サズ日本カラノ資
本、日本カラノ投資、之ヲ以テ滿洲國ガ輸
入ヲ賄ツテ來テ居ルト云フコトガ明デアル、
此事情ニ鑑ミマシテモ、滿洲國ヘノ投資
ハ、單ニ輸入超過ト同ジ結果ヲ來スモノデ
ハナクシテ、滿洲國ニ對シテノ日本ノ輸出
ヲ振興セシムル所以デアリ、滿洲國ヘノ投
資ハ取リモ直サズ殆ド日本ヘノ投資ト同ジ
結果ヲ來スモノデアルト云フコトヲ思ヒマ
スル時ニ、滿洲國ヘノ投資ハ國際收支ノ上
ニ惡影響ヲ及ボスガ故ニ統制ヲ加ヘルト云
フガ如キコトハ、私ハ如何ニシテモ理解シ
能ハザル所デアリマシテ、寧ロ反對ニ、滿
洲國ヘノ投資ガ日本ノ國際收支ノ上ニ好影
響ヲ及ボスモノデアルト私共ハ信ジテ居ル
次第デアリマス(拍手)是等ノ點カラ觀察致
シマシテ、私共ハ大藏大臣ノ御提言ニ對シ
テ諒解ニ苦シム者デアリマスルガ故ニ、此
點ニ對シテ大藏大臣ノ御所信ヲ承リ、御高教
ヲ仰ギタイト存ズル次第デアリマス、唯一
言申加ヘテ置カナレバナラヌコトハ、滿
洲國ヘノ投資ノ結果ガ、是ガ銀ニ換ヘラレ
テ滿洲國カラ逃避スル、此爲ニハ已ムヲ得
ズ統制ヲ加ヘル必要ガアル、斯ウ云フヤウ
ナ御意見モアツカヤウニ承ルノデアリマス
ガ、固ヨリ是ハ事實デアアル、滿洲國ニ於キ
マシテハ、今日朝鮮銀行券其他ヲ以テ大部
分ノ日本ノ資本ガ入ッテ來ル、是ガ國幣圓ト

換ヘラレ、更ニ又是ガ銀ト換ヘラレテ、支那
商人ヲ通ジテ支那本土ニ持歸ラレル、或ハ
日本商人ヲ通ジテ大連ナドヲ通ツテ持出サ
レル、或ハ山東苦力、此勞働者ガ一箇年ニ二
三千萬圓幣圓ヲ持ツテ歸ル、斯ウ云フヤウナ
事實ハ私共モ認メルノデアリマス、唯併ナ
ガラ此日本投資ガ銀ニ換ヘラレテ逃避スル
コトヲ喰止メルガ爲ニ、此點カラシテ投資
其モノニ制限ヲ加ヘルト云フコトハ如何
デアラウカ、銀ノ逃避、資金ノ流出、之ヲ
喰止メル爲ニハ日本ト同ジヤウニ爲替管理
法ヲ實施スル、此事モ行ヒ得ル、現ニ此機
運ハ滿洲國政府ニ於テモ非常ニ今日促進サ
レテ居ルノデアリマス、是等ノ點ニ於テモ
適當ノ喰止策ハアルト考ヘマスルガ故ニ、
此事ヲ以テ單ニ資金逃避ヲ防止スル、此點
カラシテ折角ノ企業、産業資源開發、此根
柢ヲ成ス所ノ日本カラノ投資其モノニ統制
ヲ加ヘルト云フガ如キコトハ、如何デアラ
ウカ、私共ハ疑ヲ持チ、不審ヲ持ツ者デア
リマシテ、此點ニ付キマシテモ藏相ノ御所
見ヲ承リタイノデアリマス、色々ト御伺シ
タイ點モゴザイマスケレドモ、以上ノ諸點
ニ付キマシテ何率懇切明快ナル御高教ヲ仰
ギタイト思フ次第デアリマス(拍手)

○國務大臣(高橋是清君) 岸田君ニ御答ヲ
致シマス、先般私ガ閣議ニ於テ、我國ト滿
洲國トノ投資關係ニ付テ意見ヲ述ベタコト
ガ、色々ニ世ノ中ニ傳ハリマシテ、思ハザ
ル誤解モ隨分多イヤウデアアル、併ナガラ本
當ニ此事ニ付テ心配セラレル御方ナラバ、
先ヅ言ウタ本人——新聞ヲ信ゼズ、私ニ直
接意見ヲ能ク御聽キニナツテ、然ル後ニ御
意見ヲ御定メニナツタナラバ間違ガナイノ
デアリマス、タツタ一人私ニ直接ドウ云フ
意味カ、本當ノ事ヲ聽キタイト云フ者ガアッ
タ切リナンデアル、デ私ハ格別世ノ中ニサ
ウ問題ニモナツテ居ラスト、實ハ考ヘテ居
タ、併シ今承リマス、段々トソレカラ糸
ヲ引イテ、容易ナラザル範圍ニマデ及ンデ
論ゼラレテ居ル、私ハ此機會ニ於テ、私ノ
過日閣議ニ於テ開陳シタ意見ヲ、誤リナク
此議場ヲ通シテ世ニ公ニスルコトノ出來ル
機會ヲ、岸田君ガ與ヘラレタルコトニ對シ
テ感謝ヲ致シマス、先ヅ私ガドウ云フ考ヲ
持ツテ居ッテ、ソレヲ閣議ヲ述ベタカト云フ
コトヲ申述ベマス、是ハ一月ノ初デシタガ、
私ハ昨年アタリ滿洲國ニ段々我國カラ實業
家ガ渡ッテ行ッテ、色々ナ事業ヲ企テ、而モ
其事業ガ果シテ花ガ咲クカ、實ヲ結ブカト
云フマデノ研究モ十分セズシテ、唯儲カル
儲カルト云フ一點デ、内地ノ人ニソレヲ宣
傳シテ資金ヲ集メ、隨分サウ云フ會社、事
業ノ企ナドモ濫設サレルト云フコトヲ耳ニ
シテ、中ニハ又酷イ目ニ遭ツタト云ツテ、損
ヲシタ者モ尠カラザルヤウニ聞及シタ、詰
リサウ云フ人達ノ考ハ如何カト云フト、企
テル人モ、資金ヲ投ズル人モ、滿洲ト云フ
モノハ殆ド我國同様ニ考ヘラレテ、恰モ内
地ニ於テ資本ヲ使用シ、事業ヲ起スト同ジ
ヤウニ考ヘラレテ居ルノデアルト、斯ウ云
フ考ヲ私ハ起シタノデアリマス、ソコデ先
日モ申ス通り、我國ノ今日ノ狀態ニ於キマ
シテハ、ドウシテモ此處、赤字公債ヲ無クス
ト云フ譯ニハ行カヌ情勢ノ下ニ在ルノデア
リマスルカラ、國民ヲシテ政府ノ必要トス
ル公債ノ消化力ヲ保タセルト云フコトガ一
番大切ナノデアリマス、而シテ公債ノ限度
ニ付テニツノ原因ガアルト云フコトヲ既ニ

申シテアル、其第一ニ述ベマシタ一番惡イ原因ヲ生ズルコトヲ、私ハ一番慮レテ居ルノデアル、ソレ故ニ若モ我ガ國民ガ滿洲ニ於テ使フ金ガ、内地デ使フノト少シモ變ラヌノデアルト云フヤウナ考ヲ以テ使ハレテハ、此一番慮レテ居ル所ノ我ガ對外收支ノ關係ニ大影響ヲ有ツモノデアル、ソレ故ニ其考ヲ有ツテ貫ヒタイノデアル、ソレニハ先ヅ矢張政府ヲ始メ、官民共ニ其考ヲ以テ、滿洲ニ於テハ是ハ外國デアルト云フコトヲ考ヘ、我國ノ資本ヲ濫費スルヤウナコトガアツテハナラヌト云フコトヲ、一般ニ是ハ注意セネバナラス、尙ホ今年ハ御承知ノ通り、嘗テ南滿鐵道會社ノ外債ヲ政府ガ肩替リヲシテ、其英貨社債ヲ償還スルノハ即チ來年ノ一月一日デアル、此今ノ我國ノ金ニシテ一億餘ノ償還金ト云フモノヲ用意セネバナラス、ソレニ目ノ前ニ見エテ來タ所ノ、北滿鐵道ヲ滿洲國ガ愈、「ソヴィエト」露西亞カラシテ買取ルト云フコトニ付テ、此現金モ矢張我ガ國內ニ於テ滿洲國ノ公債ニ應ジテ資金ヲ調達セネバナラスト云フコトニナル、サウ云フコトガ今年ハ臨時ト云ヘバ臨時ノヤウナモノ、平常ノ貿易及貿易以外ノ收支ノ關係ノ外ニ、特殊ノ斯ウ云フモノガ目ノ前ニアルノデアルカラシテ、一層茲ニ注意ヲセネバナラスト云フコトヲ常ニ私ハ考ヘ、而シテ前申ス通り、昨年アタリハ如何ニモ滿洲ハ事ヲ舉グレバ金ガ儲カル、會社ヲ起セバ忽チ金ガ集マル、既設ノ會社ハ忽チ拂込以上ニ「プレミアム」ガ付イテ、株ノ應募ガ十分ニ滿サレルト云フヤウナ形勢ヲ成シタノデアル、ソレ故ニ只今申ス通り、此國際收支ノ關係ニ於テハ、我國ハ亞米利加モ英吉利モ、滿

洲モ外國トシテハ經濟上ノ收支ノ關係ニ於テノ影響ハ同ジコトデアル（違フ）ト呼フ者アリ、其考ヲ以テ滿洲ニ事ヲ爲シテ貫ヒタイト云フ希望カラ、閣議ノ席デ私ガ唯口頭デ述べタノデアル、ソレガマア色々ニ傳ツテ譯デアル、固ヨリソレガ爲ニ必要ナ軍事費ヲ減ラシテ貫ハナケレバラストカ、或ハ滿洲ニ日本ノ必要ナ資本ヲ投ズルコトハ相成ラストカ、ソシナコトハ一ツモナイノデス、ソレデ希望シタル點ハ唯輕率ナ投資ヲシナイヤウニ、或ハ投資ガ重複トナテ、滿洲ノ儲カルコトバカリヲ考ヘテ、其事業ト内地ノ事業ト、利害衝突スルト云フコトモ考ナシニ濫設サレテモ困ル、双方ガ困ル、サウ云フコトノナイヤウニセネバナラス、且ツ只今申シタヤウニ、目ノ先ニ大ナル臨時ノ海外支拂ノ必要ニ迫ラレテ居ル我國ノ經濟ト云フコトカラ、今後大キナ金ヲ滿洲ニ送ラネバナラスト云フヤウナ、即チ公債ナリ社債ナリ、サウ云フモノ、大キナ金ヲ内地デ募集セネバナラスト云フヤウナ必要ガアツタラバ、大藏大臣ダケニハ、ドウカ斯ウ云フ入用ガアルカラト言ツテ、其覺悟ヲサセテ貫ヒタイ、大藏大臣ノ知ラナイ内ニ、澤山ナ金ガ海外ニ出タト云フヤウナコトガアツテハ、是ハヤリ切レナイ、其事ヲ言ウタノデアル、ソレデ民間ノ人々ニ此考ヲ以テ臨ムニハ、閣僚ニ於テ矢張サウ云フ考ヲ以テ、一樣ニ之ニ付テハ注意ヲセネバナラスト云フ、其希望ヲ以テ私ガ言ウタコトデアリマスカラ、是デ私ノ言ウタコトガ判然トシテ、此機會ニ於テ私ハ生刻モ申ス通り岸田君ニ感謝スルノデアリマス

ソコデ一體只今申シタヤウナコトデ、其他ニ何モナイノデアリマスガ、御尋ノ一ツハ滿洲事件費ノ支出及對滿投資ノ統制ニ關スル藏相ノ意見如何、是ハ私ガ今日此處デ以テ御答スル限りノモノデナイ、ソレカラ固ヨリ今日滿洲ニ關スルコトハ國家ガ施設ヲ必要トスルト云フモノニ對シテハ、唯財政上困ルカラト云フ、其一點張デ之ヲ拒ムト云フコトハ出來ナイコトハ、是ハ分リ切ツテ居ル話デアル、滿洲國ノ現狀ハ未ダ全ク治安ガ得ラレタト云フ譯ニハ行ツテ居ラスノデス、故ニ今後尙ホ矢張滿洲國ノ國防及治安等ノ爲ニハ、必要ナ支出ガアルコトハ豫見スルコトガ出來ルノデアル、然ルニサウ云フ重大ナコトガアツテモ、國內財政上ノ都合ガ惡イカラシテソレハ相成ラストハ、是ハ私ソシナコトヲ言フ考ハナイ

ソレカラ移民ノコトハ、私ヨリハ所管大臣カラ御話ヲシタ方ガ宜シウゴザイマセウ、移民ニ付テモ私ハ説ハ有ツテ居マス、併シ自分ノ所管デアリマセヌカラ、此處デ申スコトハ憚リマス

ソレカラ滿洲國ノ投資ノ結果ガ、輸入ト同ジ結果ニナルト云フコトヲ私ガ言ウタニ付テ、ソレハマルデ反對ダ、滿洲國ハ從來ハ純然タル輸出超過ノ國デアッタ、ソレハ御話ノ通り、然ルニ只今言ハレルノニハ、近頃ハ滿洲ハ之ニ反シテ輸入超過國トナッタ、其輸入超過國トナツテ居ルノハ、主ニ日本カラ滿洲ニ輸出セラレル所ノ物資ガ多イカラ、滿洲ハ輸入超過ニナツタンダ、シテ見レバ日本ノ爲ニハ、滿洲ハ國際關係ニ於テ輸出超過ニナルノダカラ、日本ノ勘定カラ云ヘバ、大藏大臣ノ言フノトマルデ反對ダト云フヤウナ御意見デアリマシタガ、唯物ノ出ルト云フコトダケヲ見レバ如何ニモ其通り、併ナガラ滿洲ハ輸出超過デアツテ、其輸

出超過ノ「バランズ」、輸出入ノ「バランズ」ヲ支拂フ力ハ何處カラ出テ來ルノカ、ヤハリ是モ主トシテ日本ノ資本ガ立替ヘルト云フカ何ト云フカ知ラヌケレドモ、調達スルヨリ外ニ仕方ガナイ、滿洲ガ輸入超過國ニ變ジタ、其爲ニ日本バカリデハナイ、滿洲對外國ノ貿易關係ニ於テ輸入超過ニナツテ、其「バランズ」ヲ支拂フ日本ガ持つツト云フコトニナレバ、我國ハ國內及臺灣、樺太、朝鮮、其他ノ貿易ノ決濟ノ外ニ、又滿洲對外國ノ貿易ノ決濟ヲモ我國デ負擔セナケレバナラスト云フ結果ニナルノデアル、併シサウ云フカラト言ツテ、滿洲ハ我國ノ品物ガ出ルノハ決シテ是ガ惡イカラ縮メロ、ソシナ考ハチットモ有ツテ居ナイ、其道理ヲ能ク辨ヘテ、商工業者ガ働イテ呉レ、巴洵ニ結構ダト思フ、要スルニ滿洲ニ我國ノ資本ヲ持出スノハ、外國ニ資本ヲ持出スノト同ジダカラ、ソレヲ粗略ニシテハナラス、輕率ニ會社ヲ起シタリ、事業ヲ興シタリシテハナラスト云フダケノ考ハ、常ニ有ツテ居テ貫ヒタイト云フ希望ニ外ナラスノデアリマス

ソレカラ滿洲ニ於ケル極端ナル統制經濟ト云フコトニ論及セラレマシタガ、是モ私ガ今直接所管ノコトデモナシ、御答ヲスベキ事柄デハナカラウト思フ、ソレハモウ統制經濟ノコトヲ論ジテ居ラレルコトニ於テモ御同感デス、統制ノ又必要ナコトモ辨ヘテ居ル、唯之ヲ如何ニ方法ヲ定ムルカ、如何ナル組織ニスルカト云フコトガ重大ナ問題ナシテ、今日放任シテ置クコトハ出來ナイトハ私モ考ヘテ居ル、併シ斯ウ云フ細イコトニ立入ツテ、且又移民ノ問題ニ付キマシテハ、ヤハリ所管大臣カラ御答シタ方ガ宜

カラウト考ヘマス(拍手)

(國務大臣林銑十郎君登壇)

○國務大臣(林銑十郎君) 只今岸田君カラ

私ニ御尋ニナリマシタコトハ、只今ノ大藏大臣ノ御答辯デ大體御了解ニナタコト、存ジマス、唯此滿洲事件費ヲ將來ニ於テ大ニ減額シテ、ソレデ警備上、其他ノコトガ行ケルカト云フ御質問ガアリマシタ付キマシテ、此機會ニ於テ一言致シテ置キタイト思ヒマス、十年度ノ此現況ニ於キマシテ、只今使用セントシテ居リマス滿洲事件費ナルモノハ、所謂必要ノ最小限デアリマシテ、今後滿洲ノ四周ノ形勢ナリ、或ハ滿洲國內ノ事情ナリニ大キナ變革ガナイトシマスレバ、此要求額ヲズット減シテ、ソレデ十分ダト云フコトハ到底行ケナイト思ヒマス、詰リ今後ニ於キマシテ滿洲國內ノ情勢ナリ、或ハ四周ノ狀況ニ非常ナ變化ガアリマスレバ、是ヨリモ減額シテ其維持ガ出來ルト云フコトガ、絕對ニナイト云フコトハナイト考ヘマス

(國務大臣伯爵兒玉秀雄君登壇)

○國務大臣(伯爵兒玉秀雄君) 只今岸田君

ヨリ滿洲移民ノ點ニ付キマシテノ御質問ガアリマシタ付御答ヲ申上ゲマス、御承知ノ通り滿洲ニ於キマス我ガ同胞ノ狀態ハ、事變後著シク改善セラレテ居リマスルノデ、其數ニ於キマシテモ、其狀態ニ於キマシテモ、安定ヲ得ツ、アルト云フ事柄ハ申スマデモナイコトデアリマス、殊ニ從來越境ノ民トシテ、東北官憲ヨリ重壓ヲ蒙リツ、アリマシタル所ノ我ガ同胞ノ八十万ノ朝鮮人ハ、著シク安定ノ地位ヲ得マシテ、今日ニ於キマシテハ、現地ノ官憲ノ厚キ保護ノ下ニ生活ヲ營ンデ居ルト云フ事柄ハ、

是亦申上ゲルマデモナイコトデアアルノデア

リマス、而シテ我ガ内地人ノ移住ニ付キマシテハ、色々ノ形ニ於テ之ヲ遂行シナケレバナラスト思ッデ居リマス、御承知ノ通りニ鐵道ノ新線ガ延長シ、萬一北滿鐵道ガ移管セラレル場合ニ於キマシテハ、我ガ自由移民ノ活動スベキ所ノ天地ハ愈々廣キヲ加ヘマセウ、又各方面ノ企業ガ興リマスルコトニ對スル工業移民トシテ、或ハ商業移民トシテ移住スル所ノ向キモ増加シテ來ルト思ヒマス、併シ茲ニ問題トナッデ居リマスルノハ所謂農業移民、集團的移民ノ問題デアリマス、政府ニ於キマシテハ滿洲事件ガ起リマシタル後、只今岸田君ノ仰セラレタル通りニ、佳木斯方面、或ハ哈爾濱ノ北方ニ向ッテ、所謂自衛移民ナルモノヲ試ミテ居ルノデアリマス、此結果ニ付キマシテハ、事變後勿々ノコトデモアリ、必シモ遺憾ノ點ナシトハ考ヘマセウガ、併シ漸次是等ノ移住シテ居リマスル所ノ青年ハ、其家族ヲ纏メテ、而シテ其農業ニ從事シテ、本然ノ目的ヲ達セント努力シツ、アリマスルノデ、必シモ不成績ト申スコトハナイト思フノデアリマス、今後政府ガ之ニ向ッテ指導ト保護トヲ加ヘテ參リマスナラバ、必ズ相當ノ成功ヲ收メ得ルモノト考ヘテ居リマス、是等ノ經驗ニ基キマシテ、政府ニ於キマシテハ計畫的ノ農業移民ヲ考慮中デアアルノデアリマスルガ、御承知ノ通りニ滿洲ノ現狀カラ鑑ミテ見、又集團的ノ農業移民ノ性質カラ鑑ミテ、是ハ決シテ容易ナ業デハナイノデアリマス、一度不成功ニ終リマスルナラバ、茲ニ種々ノ困難ナ問題ノ生ズルト云フ事柄ハ申スマデモナイコトデアリマスルカラ、苟モ茲ニ計畫ヲ立

テル上ニ於キマシテハ、慎重ヲ加ヘナケ

レバナラスト思ウテ居リマス、隨ヒマシテ現地並ニ拓務省ニ於キマシテ協同致シマシテ、是ガ計畫ニ付テ考慮シタ結果、茲ニ或ル具體案ヲ得ツ、アルノデアリマス、只今岸田君ノ仰セラレタル案ノ如キハ、其一ツノ案デアリマス、併ナガラ此案ノ内容ニ付キマシテハ、更ニ檢討スベキ所ノ點ガ多アルノデアリマス、而シテ岸田君ガ、既ニ成案ニナッデ居ルモノガ、此議會ニ提出サレナイノハ、大藏大臣ノ只今ノ御意見ニ基クノデアルト云フヤウナ御話ガゴザイマシタガ、大藏大臣ノ對滿經濟觀念ハ、只今此議場ニ於テ申サレマシタ通りデアリマスノデ、決シテ大藏大臣ノ御考ニ依ッテ是ガ阻止サレテ居ルト云フコトハ毫モナイノデアリマス、又苟モ國策ヲ實行スル必要ガアリマスルナラバ、大藏大臣モ、國民ノ總意モ、必ズ之ニ賛成シテ下サルコト、私ハ信ジテ居ルノデアリマス、併ナガラ只今申上ゲマス通りノ事態ニアリマスルノデ、頻ニ調査ヲ急イデ居リマス、出來得ベクンバ本議會ニモ提出致シタイ考デ調査ヲ急イデ居リマス、併ナガラ今日尙ホ茲ニ必ズ本議會ニ提出セント云フダケノ意見ヲ申上ゲルコトヲ、躊躇セザルヲ得ナイノヲ私ハ遺憾トスルノデアリマス、左様御諒承ヲ願ッデ置キタイト思ッデ居リマス

○議長(濱田國松君) モウ御質疑ハアリマセウカ

○岸田正記君 簡單デアリマスカラ、當席

ヨリ御許ヲ願ヒマス

○議長(濱田國松君) 許可致シマス

○岸田正記君 只今大藏大臣ノ滿洲事件

費、或ハ對滿投資ニ對シテノ統制、之ニ付テ

ノ御所見ヲ承リマシテ、私ハ稍、其御真意ヲ

了解スルコトガ出來マシテ、満足ニ思フ次第デアリマス、唯併ナガラ重ネテ苦言ヲ呈スル、ト申シマシテハ甚ダ失禮デアリマスケレドモ、遺憾ノ意ヲ表セザルヲ得ナイモノハ、依然ト致シテ滿洲國ハ國際收支ノ關係カラ見レバ外國デアアルガ故ニトノ御言葉ヲ繰返サレタノデアリマスルガ、私ハ是ハ成程我國財政ノ歲入歳出ノ均衡、或ハ獨リ日本ノ金融ト云フ、日本ダケノ見地カラ申シマスレバ、形式的ニ、又實際的ニ、滿洲國ハ是等ノ關係ニ於テ外國視スルコトハ已ムヲ得ナイコトデアラウト思ヒマスケレドモ、併ナガラ今日ノ我國ノ外交ノ上ニ於テ、或ハ經濟、或ハ金融ノ問題、是等ノ點カラ考ヘマシテ、日滿經濟「ブロック」ト云フモノガ如何ナル意義ヲナスモノデアルカ、又此非常ナル所ノ國家的犧牲ヲ拂ッテ、漸ク建設工作ガ半バニ進ミツ、アル此場合ニ當リマシテ、滿洲國ヲ目シテ飽迄モ外國扱ヲ致スト云フコトハ、私ハ日滿經濟「ブロック」ノ眞ノ精神ハ、何處ニ之ヲ發見シ得ルモノデアルカト云フコトヲ疑ハザルヲ得ナイ、殊ニ又是ガ大藏省ノ事務官僚ノ一家言、事務的扱ノ上ニ於テノ意見トスレバ免モ角モ、滿洲國三千万ノ大衆、又資源開發ノ第一線ニ活躍致シテ居リマスル數十萬ノ在滿同胞、或ハ百万ノ朝鮮人、是等ノ人々ガ非常ニ大キナル所ノ期待、信頼、依頼ヲ我ガ政府、特ニ日本ノ大藏當局ノ大キナル肚ニ掛ケテ居ル其實情ニ鑑ミマスレバ、單ニ日本財政經濟ノ最高首腦タル高橋大藏大臣ガ、國際收支ノ關係、此建前ノミヲ以テ致シテ、滿洲國ヲ外國扱スルト解セラレル御言動ニ對シテハ、私共ハ遺憾ナガラ多大ナル深憂ヲ

懷カザルヲ得ナイノデアリマスガ、唯併ナガラ承ル所ニ依リマス云フト、滿洲國ノ投資ノ上ニ對シテ御述ベニ相成リマシタ所ノ御意見ノ内容ニ於テハ、決シテ謂ハレナク統制、制限ヲ加ヘルト云フノデハナクシテ、唯利潤ノ有ルヤ無シヤ、未ダ不安固ナ状態ノ下ニアル事業ナドニ對シテ無暗ニ投資ヲ行フ、或ハ又日本内地ノ同種企業ト相衝突シ、相對立スルガ如キ企業ニ持ッテ行ッテ投資ヲ行フ、爲ニ生産過剰ニ陥リ、日滿兩經濟共ニ苦シムト云フヤウナコトナキヤウニ、深キ注意ヲスベキコトヲ單ニ希望シタニ過ギナイト云フ御言葉デアリマスガ故ニ、私共ハ此點ニ付キマシテハ、一面既ニ滿洲國自體ノ内ニ於テ、只今申上ゲマシタ通りニ盡然タル公營事業、或ハ免許事業、或ハ自由企業、是等ノ區別ガアリマシテ、十二分ニ手嚴シ過ギル程度ノ規格モアリ、統制モアルコトデアリマスガ故ニ、重ネテ日本政府トシテノ餘リノ御心配ハ要ラスト存ジマスケレドモ、單ニ是等ノコトヲ御心配ニナツテノ御希望ニ過ギナカッタト云フコトデアリマスカラシテ、私共ハ此點ニ付キマシテハ十分安心ガ出來ル次第デアリマス、其他ノ點ニ付キマシテ多少私共ノ意見解シ得ナイ點モゴザイマスケレドモ、ソレハ又適當ノ機會ニ於テ御伺スル途ガアラウト存ジマスカラ、私ハ此程度ニ於テ大藏大臣ニ對スル質問ハ打切りマス、尙陸軍大臣ノ御答辯ニ對シマシテハ、私ハハッキリドウ爲サルト申サレノカ、御所見ノ眞意ヲ了解スルコトガ出來ナイ點モアッタノデアリマスケレドモ、唯併シ大ニヤル、確信ヲ貫ク、斯ウ云フヤウナ點ニ付テノ御答辯ノ御言葉ニ對シテハ、滿洲國民衆、在

滿同胞モ深ク安堵スル點ガアツタラウト、私ハ確信致ス次第デアリマス、唯一言質問ノ點ト關聯致シマスガ故ニ、此際希望ヲ申シ、御願ヲ申上ゲテ置キタイコトハ、此滿洲ニ於ケル所ノ經濟統制、或ハ傳ヘラレルガ如キ極端ナル國家社會主義的ノ經濟機構、是等ニ付キマシテハ固ヨリ軍部——ト申シマシテハ語弊ガアルケレドモ、世上一般ニ傳ヘラレ紀憂セラル、ガ如キ真相内容ノモノデナイ、精神ノモノデナイト云フコトハ、私共今日了解スルノデアリマスケレドモ、建國當初ニ於テ聲高ラカニ斯ク喧傳セラレタル結果ハ、洵ニ遺憾ナモノガアリ、此事ガ如何ニ日本ノ滿洲ニ對スル企業發展ノ上ニ支障ニナツタカ、如何ニ事業其モノ、障害ニナツタカト云フコトヲ深ク顧ミル所ガアリマシテ、滿洲ニ於ケル所ノ權益其モノヲ非常ナル國民的ノ犧牲ニ依ッテ獲得タル賜ヲ斷ジテ一面資本家階級ニ壟斷セシメルコトヲ許サルモノデアリマス共ニ、又斷ジテ經濟ノ何物タルカニ對シテ深キ理解ヲ有タザル所ノ、一部階級ノ獨裁ニ委スコトノ出來ナイト云フコトヲ、明ニ申上ゲテ置キマス共ニ、陸軍大臣ニ於カレマシテハ、對滿事務局總裁トシテ、近ク又開カルベキ日滿經濟會議ヲ通ジテ、十二分ニ滿洲國當路ニ對シテ、此點ニ付キ深キ戒心ヲ加ヘラレンコトヲ希望致シマシテ、私ハ質問ヲ打切りタイト思ヒマス(拍手)

(國務大臣高橋是清君登壇)

○國務大臣(高橋是清君) 再ビ此處ニ立チマスノハ甚ダ遺憾デアリマスケレドモ、先刻申ス通り折角茲ニ私ノ意見ノ誤傳ヲ正スト云フ機會ヲ與ヘラレタト云フコトデ、私ハ御禮ヲ申シタノデアリマスガ、只今ノ御

話ノ中ニ、是ガ又誤解ヲ生ズルヤウナコトガアツテハナラスト氣付イタ點ガアリマス、ソレハ大藏大臣ハ滿洲ヲ外國扱ニスル、是ハ取りヤウニ依ッテハ餘程内地人ニモ滿洲人ニモ愉快ナ考ヲ與ヘルノデアリマスカラシテ、其點ハ御注意ヲ願ヒタイ經濟「ブロック」ト云フコトガ一番宜イノ、例ヘバ歐羅巴ノ協商國ノ間ニ、五ニ生産經濟ノ協定ヲシテ、利害ノ衝突シナイヤウニ、五ニ相扶ケ助ケテ行カウト云フノガ經濟「ブロック」デアリマス、滿洲ヲ私ガ資本投資ノ關係ニ於テ外國ト同様ナ考ヲ以テセナケレバ、我國ト國際關係ノ貿易及貿易以外ノ收支ノ關係ニ於テハ、我國デ負擔ヲスル方ニナルノダカラ、其心持ヲ以テ投資ヲシテ貰ヒタイト云フノガ私ノ考デアリマスガ、惜テ是ガ私ガ滿洲ヲ外國扱ニシテ、經濟「ブロック」ヲ妨ゲルノダト云フヤウナ御見解デアッタナラバ、ソレハ矢張間違ナノデアル、外國ノ間ニ經濟「ブロック」ト云フモノハ出來ルノデアリマス、詰リ先刻申シタ通り滿洲ニ、事業ヲ起スノハ宜イガ、其事業ガ又日本ノ事業ニ反對ノ關係ヲ有ツテ、五ニ競争シテ五ニ成立タヌヤウナコトガアツテハ、是ハ「ブロック」デハナイカラ、サウ云フコトヲ協調シテ行クノガ即チ「ブロック」デアリマスカラ、私ガ貿易及貿易外ノ收支ノ關係ニ於テ、滿洲ト日本トハ矢張他國ト同ジ結果ヲ生ムノダト云フコトヲ申シタコトヲ以テ、滿洲ヲ外國扱ニシテ、即チ經濟「ブロック」ヲ破ルモノダト云フヤウナ御考ガ若シアルナラバ、ソレハ又私ノ考ト違ヒマスカラ、此點ニ付テハドウカ間違ノナイヤウニ御諒承ヲ願ヒタイ(拍手)

○議長(濱田國松君) 各案ノ審査ヲ付託ス

ベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮ヲ致シマス

○青木雷三郎君 日程第一及第二ノ兩案ヲ一括シテ、議長指名、二十七名ノ委員ニ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(濱田國松君) 御議異ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ——日程第三、臨時利得稅法案ノ第一讀會ヲ開キマス——大藏大臣高橋是清君

第三 臨時利得稅法案(政府提出)

第一讀會

臨時利得稅法案

臨時利得稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本法ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者ハ本法施行地ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス

一 法人ノ利得

二 營業收益稅法第二條ニ掲グル營業(鑛業又ハ砂鑛業ヲ含ム)ニ因ル個人ノ利得

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ既往事業年度ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額中年二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ法人ノ利得金額トス

前項利得金額計算ノ場合ニ於テ左記各號ニ該當スルトキハ各其ノ定ムル所ニ

依り既往事業年度ノ平均利益ヲ計算ス

一 何レノ既往事業年度ニ於テモ利益ナキトキ又ハ既往事業年度ノ平均利益ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七未満ナルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

二 法人ノ第一次ノ事業年度ガ昭和七年一月一日以後ニ於テ終了シタルトキハ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ七ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス

三 現事業年度ノ資本金額ガ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對シ増減アルトキハ既往事業年度ノ平均資本金額ニ對スル平均利益ノ割合ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乗ジテ算出シタル金額ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益トス此ノ場合ニ於テ第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ現事業年度ノ資本金額ヲ既往事業年度ノ平均資本金額ト看做ス

四 現事業年度ノ期間ガ既往事業年度ノ期間ト異ルトキハ現事業年度ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ既往事業年度ノ利益ヲ計算ス

本法ニ於テ現事業年度ト稱スルハ昭和十年一月一日以後ニ於テ終了スル各事業年度ヲ謂ヒ既往事業年度ト稱スルハ昭和六年十二月三十一日以前二年内ニ終了シタル各事業年度ヲ謂フ

第五條 法人ノ利益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ保險會社ニ在リテハ各事業年度ノ

利益金又ハ剩餘金ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準ジテ計算ス

法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

前項ニ於テ積立金額ト稱スルハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ計算ス

第七條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往事業年度ノ平均資本金額及平均利益ハ命令ノ定ムル所ニ依リテ計算ス

第八條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 個人ノ利益ガ昭和六年以前二年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額中二千圓ヲ控除シタル金額ヲ以テ個人ノ利得金額トス

營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト

看做ス

營業ノ期間ガ一年未満ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

利得金額計算ノ場合ニ於テ昭和六年以前二年ノ平均利益三千圓未満ナルトキ又ハ其ノ平均利益ナキトキハ三千圓ヲ以テ平均利益トス

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ前年一月一日ヨリ引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ付テハ其ノ年ノ豫算ニ依リ計算ス

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

第十一條 個人ノ利益ガ六千圓未満ナルトキハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本法ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 臨時利得稅ノ稅率ハ利得金額百分ノ十トス

第十五條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ利得金額ハ所得稅法ノ所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ利得金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ニ於ケル所得調査委員會ノ調査ニ依リ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出デ又ハ利得金額ノ増加アルコトヲ申出デタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

第十八條 稅務署長ハ毎年個人ノ利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 所得稅法第五十條乃至第五十二條ノ規定ハ利得金額ノ決議及決定ニ付テ之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審查委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得稅法第五十二條及第六十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 利得ニ付納稅義務アル個人ハ利得金額ニ減損アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ政府ニ利得金額ノ更訂ヲ請求スルコトヲ得但シ利益二分ノ一以上減損セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

利得金額決定後營業繼續ニ因リ利得金額ノ減損シタル場合ハ前項ノ規定ヲ適用セズ

得

第二十六條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

個人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ四分シ左ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日

第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日

第三期 翌年一月一日ヨリ三十一日限

第四期 翌年三月一日ヨリ三十一日限

第二十七條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ通脫シタル者ハ其ノ通脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ前項ノ場合ニ於テ個人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ通脫シタル者ノ利得金額ハ第十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第二十八條 臨時利得稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 所得稅法第五十七條、第五十八條、第七十條及第七十二條乃至第七十三條ノ二ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第三十一條 大正九年法律第十二號第二條及第三條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ居所ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第三十二條 大正十三年法律第六號ニ依リ所得稅及營業收益稅ヲ免除セラルル所得及純益ニ付テハ本法ヲ適用セズ

第三十三條 北海道、府縣、市町村其ノ

他ノ公共團體ハ臨時利得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本法ハ昭和十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス

第十六條ノ規定中三月十五日アルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

六 臨時利得稅

〔國務大臣高橋是清君登壇〕

○國務大臣(高橋是清君) 只今議題トナリマシタ臨時利得稅法案ニ付テ其大要ヲ御說明致シマス、本稅制定ノ趣旨ハ既ニ申述ベマシタ如ク、我國財政經濟ノ現狀ニ鑑ミマシテ、時局ノ好影響ヲ受ケテ活況ヲ呈シテ居ル産業ニ對シテ臨時新稅ヲ設ケ、増加セラル利益ノ一部ヲ納付セシムルコトヲ適當ト認メタ次第デアリマス、本法案ノ大體ノ骨子ヲ申述ベマスレバ、本稅ハ其趣旨ヨリシテ課稅ノ範圍ヲ營業ニ限ルコトニ致シ、大體營業利法人ノ利益ト、個人ノ營業ノ利益ニ對シテ課稅スルノデアリマシテ、是等ノ利益ガ昭和六年以前二年間ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於キマシテ、其超過額ニ對シテ百分ノ十ノ稅率ヲ以テ賦課スルコトニ致シタクノデアリマス、尙ホ經濟界ノ狀況、營業者ノ實體等ニ鑑ミマシテ、昭和五年六年當時ノ、利益ガ少キ場合ニハ、法人ニ付テハ資本金額ノ年七分ニ相當スル金額ヲ、又個人ニ付テハ三千圓ヲ當時ノ平均利益ト見テ課稅スベキ超過額ヲ算出スルコトニ致シマシタ、又法人個人トモ超過額ヨリ年額二千

圓ヲ控除シテ、其殘額ニ課稅スルコトニ致シ、且ツ個人ニ付テハ其年ノ利益六千圓未滿ノ場合ニハ課稅セザルコト等ノ規定ヲ設ケマシテ、本稅施行ノ圓滑ヲ圖リマシタ次第デアリマス、本稅ハ當分ノ中施行スル見込デアリマシテ、其歲入ハ昭和十年度ニ於テ三千三十餘萬圓ノ豫定デアリマス、以上大體ノ說明ヲ致シマシタガ、尙ホ其詳細ノ點ニ付キマシテハ、適當ノ機會ニ於テ說明致シタイト存ジマス、何卒御審議ノ上速ニ御協賛アラントラ望ミマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 質疑ノ通告ガアリマス、順次之ヲ許シマス——松村光三君

〔松村光三君登壇〕

○松村光三君 私人本案ニ對シ先ツ緒論ト致シマシテ、基本的ノ質疑ヲ三ツ、本論ニ入リマシテ法案其モノニ對スル質疑ヲ三ツ、合セテ六ツノ質疑ヲ致シマス

緒論ノ第一ハ總理大臣ノ答辯ヲ求メマス、抑、現內閣閣員以來、藤井前藏相ハ從來緊縮政策、殊ニ增稅ノ主張者デアルカノ如ク解セラレテ居リマシタ爲ニ、組閣、早クモ現內閣ノ增稅ガ社會ノ問題トナツタノデアリマシテ、一抹ノ不安ヲ財界ニ與ヘタノデアリマス、前藏相井藏相ハ機會アル毎ニ之ヲ打消シ、岡田總理モ亦、昨年八月四日、新聞記者諸君ト會見シ、其席上、增稅ハ斷ジテ行ハザル旨ヲ斷言シタ筈デアリマス、茲ニ聊カ財界ニ安心ヲ與ヘタノデアルガ、其後軍部ノ龐大ナル豫算ノ要求、大藏當局ノ之ニ對スル論駁、此間甲論乙駁、世論ニ疑ヲ挾マシメ、又他ノ閣僚諸君ノ間ニモ增稅ニ對シテ異議ヲ唱フル者アリ、爾來幾多閣議ノ混亂ヲ經テ、漸ク最後ガ三千餘萬圓ノ此臨時利得稅トナツテ現レタノデアリマス、此

間十月初旬ヨリ一箇月ノ間ニ、財界、株界、株式界ニ大混亂ヲ與ヘ、僅カノ間ニ十餘億萬圓ノ株式低落ヲ示シ、重要商品ノ下落ヲ合スルナラバ、約二十億萬圓内外ノ暴落ヲ持來シタノデアリマス、爲ニ日本銀行、興業銀行ハ是ガ救済ニ出動ヲ決議シ、事態漸ク重大ナル形勢ヲ惹起シタノデアリマス、斯ノ如キ狀態ヲ來シマシタノハ、要スルニ礦井前藏相、現岡田首相ノ二枚舌、其態度ノ豹變、是ガ財界ノ信用ヲ失ツタノデアリマス、此岡田首相ノ政治上ノ責任ヲ伺ハナケレバナラスノデアリマス(拍手)股鑑遠カラズ、曩ノ若槻内閣ノ末路ヲ、時ノ片岡大藏大臣ガ豫算總會ニ於テ、誤ッテ渡邊銀行ノ店閉メヲ報告致シタル爲ニ、全國銀行ノ取付トナリ、遂ニ驚クベキ金融「パニック」ヲ生ジテ、若槻内閣ガ崩潰セル先例ヲ考ヘテ見テモ……(遠ヒマス)「ソナナ事實ハナイ」ト呼フ者アリ)斯ノ如キ事情ト照シテ見テモ、岡田總理ノ此二枚舌、斯ノ如キ態度ノ豹變ニ對シ、如何ナル考ヲ以テ答辯サレカ、明快ナル御回答ヲ願ヒタイノデアリマス

第二ハ大藏大臣竝ニ軍部大臣ノ所見ヲ聞ヒマス、即チ本案提出ノ趣旨目的ガ甚ダ不徹底デアルト云フコトデアリマス、政府ノ提案理由ノ説明ニ依リマス、或ハ租稅ノ公平ナル負擔ノ爲ニ本案ヲ提出シタト云ウテ居ルガ、其實際ヲ見ルニ、基礎ノ鞏固デアタル所ノ萬年景氣ノ會社ハ、其負擔ガ輕ク、新興ノ會社、或ハ漸クニシテ整理サレタル會社ノ如キニ至ッテハ、突如トシテ重キ負擔ヲ課セラレ、即チ擔稅能力ノ點カラ見マシテモ、此新稅ハ必シモ公平ナル負擔ト言ヒ難イノデアリマス、更ニ個人ニ付キマシテ

ハ、營業ニノミ課スルガ故ニ、營業以外ノ所謂「インフレ」景氣ニ依ッテ儲ケタル者ノ課稅ガ免除サレテ居ルト云フコトモ、亦公平ノ負擔トハ言ヒ難イノデアリマス、當局ガ負擔ノ公平ヲ論ジ、甚シキニ至リマシテハ、是ガ社會政策的ノ稅アルカノ如ク唱フル者モアリ、世間ニハ斯クノ如ク見テ居ル人ガ少クアリマス、實ニ滑稽千萬デア

ル、何處ガ一體社會政策的ノ課稅アルカ、何處ガ眞ニ公平ナル租稅ノ負擔アルカト云フコトヲ伺ハナケレバナラスノデアリマス、又收稅ノ目的タル——收入稅主義ノ爲ニ課シタト云フ、果シテサウデアリマスルカ、二十二億ノ豫算ニ對シテ僅ニ三千餘萬圓ノ收入、是モ收稅ノ目的ト云ハレナイコトモアリマセスガ、餘リニ其輕微ナルコトハ、收稅目的ノ増稅ト云フニハ相應ハシクナイト思フノデアリマス、況ヤ高橋大藏大臣ハ、曩ニ大臣就任後、日本經濟聯盟ニ於キマシテ、斯ノ如キ意見ヲ吐イテ居ラレ「今日ノ歳入歳出ノ「バランス」ハ各國共ニ腐心スル所デアルガ、歐米各國ハ皆短期ノ外國資本ヲ有ッテ居ル、且ツ互ニ資本ノ動キガ自由デアアル、ソレ故ニ財政ノ均衡ガ破レ、爲替相場ガ不安トナレバ、外國資本ガ危險ニ曝サレノミナラズ、自國ノ資本迄モ逃避スル、歐米各國ニ於テハ財政ノ均衡ト云フコトハ斯ル意味ニ於テ重要デアアルガ、我國ニ於テハ今日斯ル事實ハナイ」ト公言シテ居ラレノデアリマス、是ハ流石ニ高橋

サンノ卓見デアアル、動モスレバ官僚的ナル技術的ナル數理ニ因ハレテ、歳入歳出ノ「バランス」ヲ合セント努ムル今日ノ大藏當局ニ對シテ、流石ニ高橋サンハ、我國ト外國トハ違フト敢然言ハレタルコトハ、勿論之ニ

依ッテ「バランス」ガ合ハナクモ宜イト云フ意味デハナイコトハ明瞭デアリマスルガ、流石ニ高橋サンハ卓見ヲ披露サレタモノデアルト思フノデアリマス、斯ル事ヲ考ヘマ

スル時ニ、是ガ收入支出ノ均衡ヲ合セル爲ノ收稅ノ一ツデアルト云フヤウナコトハ、殆ド其意味ヲ爲サスノデアリマス
更ニ轉ジテ今日日本經濟界ノ現況ヲ觀マスト、定ニ跛行的デアアル、此跛行的ナルコトハ何處カラ起ツタカ、曰ク爲替低落カラ來ル貿易ノ増進、軍事費ノ膨脹カラ來ル所謂軍事「インフレ」斯ノ如キ事ガ主タル原因デアリマス、隨テ此時局ノ利益ヲ受クルモノハ專ラ輸出業者、次ニハ軍事關係者デアッテ、其他ノ者ハ寧ロ僅ニ其餘德ヲ得ルニ過ギヌノデアリマス、而モ農民大衆、勞働者ノ多數ハ、此軍事景氣、此跛行的ナル貿易増進ニ依ッテ恩惠ヲ受ケル所ハ少イ、ノミナラズ或ル意味ニ於キマシテハ多少ノ被害者デアリマス、是ハ今日物價ノ騰貴ガ主トシテ輸入品ニ現レ、更ニ輸出品ニ現レ、國內商品ガ最モ物價騰貴ノ惠ヲ受ケズ、殊ニ農産物ハ賣ル物ハ安ク、買フ物ハ肥料ト云ハズ、殊ニ外國カラ來ル所ノ肥料ノ如キハ、斯ル意味ニ於キマシテ高イ肥料ヲ買ハネバナラス、高イ著物ヲ著ナケレバナラス、斯ノ如キコトヲ考ヘマスルナラバ農民大衆ハ此跛行的ナル軍事景氣ノ、跛行的ナル貿易増進ノ、或ル意味カラ申シマスルナラバ間接ノ被害者デアリマス、斯ノ如キコトヲ考ヘマスル時、此増稅ハ、出來マスルナラバ、特ニ農民大衆、中小商工業者救済ノ爲ニ充當シテコソ、多少ナリトモ此新稅賦課ノ趣旨ガ徹底スルノデアリマス、然ルニ今日ハドウナッテ居ルカ、要スルニ軍事費ガ

増大シテ居ル、軍事費ガ増大シテ居ルカラ、公債ヲ以テ足リス、斯ル新稅ヲ爲シタト云フ結論ニナリマス、換言スレバ軍事費ガ軍事景氣ヲ招イタ、軍事景氣ガ臨時利得稅ヲ起サシタ、此新稅ガ更ニ軍事費ノ不足ニ充當サレル、所謂空廻リデアアル、斯ノ如キ空廻リ景氣ニ依ッテ國民大衆ハ殆ド恩惠ヲ受ケナイト云フコトハ、詳シキ説明ヲ要シナイノデアリマス、然ルニ軍部大臣ハ常ニ國民生活ノ安定コソ國防ノ第一要素デアルト主張スルケレドモ、何ガ故ニ此國民大衆、殊ニ農民中小商工業者ニ向ッテ之ヲ救済スルコトヲ強調セザルヤ、軍部大臣ハ薩ニ於テハ斯ル主張ヲ爲シテ居ルケレドモ、何故ニ堂々トシテ自己ノ信念ヲ闡議ニ於テ徹底的ニ主張シナイノデアリマスルカ、之ヲ軍部兩大臣ニ問フノデアリマス、若シ軍部大臣ガ口ニスルガ如クニ、此國民大衆ノ生活ノ安定ヲ主張シ得ナイナラバ、他方ニ此軍事景氣ヲ是認シ、之ガ課稅ノ必要ナルコトヲ軍部大臣自ラ主張サレテ居ル立場上カラ見テモ、何故退イテ大藏事務當局ノ主張ノ如クニ、軍需品ノ單價切下ヲ斷行シナイノデアリマスルカ、軍需品ノ單價切下モ出來ナイナラバ、百尺竿頭、更ニ一步ヲ進メテ、軍需品ノ註文ニ方ッテ「コスト・システム」ヲ採ッテ、是等軍需品ノ會社ニ向ッテ、暴利ヲ取締ルコトヲ何故斷行シナイノデアリマスルカ、私ハ此軍部大臣ガ軍事費ヲ節約スルコトガ出來ナイナラバ、今回ノ如キ新増稅ノ特別ナル使途ニ對シテ、深甚ナル考慮ヲ拂ハレ、之ヲ闡議ニ何故主張シナイノデアアルカト云フコトヲ問フノデアリマス

第三ハ大藏大臣ニ伺ヒマス、本案提出ノ時機竝ニ方法ヲ誤ッテ居ルト云フコトデア

リマス、増税ノ時機ヲ得タルヤ否ヤ甚ダ疑問ナキ能ハズデアリマス、何トナレバ明年軍縮會議モマダ豫備交渉スラ目當ガ付キマセ

ニ付キマシテ高橋サンノ所見ヲ問フノデアリマス

ニ是ガ非常ニ増大スルト云フコトヲ、一般ハ恐レテ居ルノデアリマス、一度國民ノ信ヲ失ツタ此増稅案ガ、世間一般ニ想像以上ノ不安ヲ與フル所ノ根本原因ハ茲ニアルノデアリマス、又昭和五年六年ト云フノハ、極端ナル減資減配ヲ會社ガ斷行シテ時デアリマス、辛ウジテ整理シテ會社ガ勤クナイ、漸ク息ヲ吹イデ居ル、斯ル會社ニ向ヒマシテ、其後三四年間ノ利益ガアルカラト云ツテ、直チニ之ニ増稅ヲ敢行スルガ如キ、果シテ時機ヲ得タカドウカ、又個人營業稅ニ關シマシテモ、課稅ノ技術上幾多ノ困難ノアルコトモ想像シナケレバナラスノデアリマス、何故ナレバ個人ノ營業上ノ利益ヲ明確ニ計算スルコトハ非常ニ困難デアル、今日マデ困難デアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

害ヲ、如何ニ調和スルカト云フ問題デアリマス

リマス、増税ノ時機ヲ得タルヤ否ヤ甚ダ疑問ナキ能ハズデアリマス、何トナレバ明年軍縮會議モマダ豫備交渉スラ目當ガ付キマセ

更ニ本論ニ移リマシテ、本案其モノ、内容ヲ檢討致シマス、其第一ハ本案第四條ニ於ケル超過計算ノ基準ヲ、昭和五年六年、即チ金解禁ニ依ル極端ナル不況時代ニ基礎ヲ置クト云フコトデアリマス、隨テ殆

第三ハ本案第四條ニ依ッテ、超過利益ノ基準ヲ、平均資本金額ニ對シマシテ一箇年間七分ト致シマス、七分以上ニハ課稅スルト云フ、此七分トスル所ノ理論上ノ根據如何ト云フコトデアリマス、何ヲ根據ニ七分ト定メタカ、之ヲ伺フノデアリマス、凡ソ個人ノ所得ニ於キマシテ、生活ノ最低限度ヲ控除サル、コトハ言フヲ俟タヌト同ジ理由ニ依リマシテ、法人所得ニ於キマシテモ、亦會社ガ或ル程度ノ配當ヲ爲スト云フコトハ、會社存立ノ上カラ見テ當然必要ナコトデアリマス、今日金利ハ成程下ッテ居ル、金利ハ下ッテ居ルガ、今日財界一般ノ通念ニ依リマス

ラバ、財界各方面トモ早クモ警戒ヲシテ居ルノハ何故デアルカ、今日各方面トモ警戒氣分ニアル時ニ、突如トシテ三千万圓トハ云ヒナガラ、之ヲ新シク興ラントスル工業ニ課稅スルガ如キハ、時ヲ得タルモノノデナイト思フノデアリマス、況ヤ出來ルカ出來ナイカ分ラヌガ、現内閣ハ國策審議會ヲ主張シテ居ル、國策審議會ヲ主張スルナラバ、斯ノ如キ増稅コソ稅制整理ノ根本問題ト共ニ之ヲ提案シ、半年或ハ一年ノ後ニ確乎タル所ノ成案ヲ得テ、茲ニ新ナル増稅計畫、新ナル稅制整理案トシテ提案スルコトコソ、然ルベキデナイカト考ヘルノデアリマス、此點ニ關スル

大藏大臣ノ所見ヲ問フノデアリマス、殊ニ大藏大臣ハ増稅尙早ノ議論ヲ常ニ唱ヘラレテ居リ、此根本的ノ意見ト對照シテ、本案ニ對シテハ果シテ衷心カラ賛成デアリマスカ、或ハ大藏大臣ニ就任ノ今日、便宜上カラ心境ノ變化ガアルノデアリマスカ、此點

大正七年ノ戰時利得稅ガ、最初ハ大正七年度千八百萬圓ト見積ツタ、實際ハ之ガ八千百萬圓トナツタ、大正八年ハ驚ク勿レ一億六千二百萬圓トナツテ居ル、政府ノ豫算スル所ヨリモ五倍モ、或ハ甚シキニ至リマシテハ九倍ニ近イ結果ニナツタ、斯ノ如キコトガ先例ニアルカラ、此處デ民間一般ノ人モ、亦此前ノ戰時利得稅ト同ジヤウニ、是ガ非常ナル大増稅ニナルノデハナイカト云フコトヲ懸念シテ居ルノデアリマス（拍手）殊ニ一方ニ於テハ本年度ノ豫算ニ於テ三千万圓ノ所得稅ノ自然增收、六百二十萬圓ノ營業收益稅ノ自然增收ヲ見込シテ居ル、斯ノ如ク所得稅ト營業收益稅ヲ合セテ三千七百餘萬圓ノ自然增收ヲ見込シテ居ル外ニ、尙ホ別ニ三千万圓ノ新稅ヲ課シ、更

第二ハ現行ノ所得稅ニ超過所得稅ノ規定ガアリマス、是ハ一割以上ノ超過利益ハ課稅サレルノデアリマスルガ故ニ、現行ノ超過所得稅ト重複スル虞ハナキカ、重複スルナラバ之ヲドウシテ兩者ノ重複ヲ調節スルヤ、又會社ノ利益ニ對シマシテ、法人オ互ノ間ニ株ヲ有シテ居リマス場合ハ、一度法人トシテ課セラレタル株ヲ、他ノ會社ガ有チマスルナラバ二重ノ課稅ヲサレルノデアリマスル、殊ニ持株專門ノ社ノ如キ、此二重課稅ノ今日ノ重キ負擔ヲドウシテ調和スルカ、是ガ併セテ第二ノ問題デアリマスル、即チ繰返シテ申シマスルナラバ、超過所得稅トノ關係、法人ノ課稅、殊ニ持株會社ノ課稅ガ、二重ニ課稅サレルト云フコトノ弊

害ヲ、如何ニ調和スルカト云フ問題デアリマス

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

突如トシテ僅バカリノ増稅案ヲ提出サレタコトヲ疑フノデアリマス、他方ニ大藏大臣ハ經濟界ノ前途ニ付キマシテ、過般本會議デ樂觀的ノ意見ヲ吐カレマシタガ、貿易ノ現狀、爲替ノ現狀漸ク轉換期ニ入ラントシテ居リマス、生産ハ過剩、資本ハ膨脹デア

ニナルノデハナイカト云フコトヲ、私共バカリデハアリマセヌ、民間一般ノ懸念ハ三千万圓ヲ恐ル、ノデハアリマセヌ、是ガ非常ナル金額ニナルノデハナイカト云フコトヲ恐レテ居ルノデアリマス、何故ナラバ義

日マデ困難デアアルガ如クニ、今後モ無論サウデアアル、カルガ故ニ課稅ノ技術上ニ於キマシテ、是ハ餘程困難ヲ伴フト考ヘナケレバナラスノデアリマス、是ガ第一ノ疑義デアリマス

果シテ然ルナラバ、年六分配當ヲ必要條件トシテ、會社ハドウシテモ一箇年ニ少クトモ九分、或ハ一割ノ利益ヲ獲得シナケレバナラスノデアリマス、曩ニ戰時利得稅ガ少クトモ一割ニ分ヲ引トシテ認メタト云フ理由ハ、恐ラク此處ニアルノデアリマセウ、前ノ戰時利得稅ニ於テスラ一割二分ノ利益ヲ引シタノデアアルガ、何故ニ今回ノ法案ハ單ニ年七分ヲ認メタノミデアリマスカ、戰時利得稅ノ場合ハ一割二分、今回ハ七分、其兩者ノ差異ハ如何ナル理由ニ基タカ、之ヲ伺フノデアリマス、或ハ大藏大臣ハ斯ウ言フカモ知ラス、ソレハ七分トシタケレドモ、前ノ戰時利得稅ニ於テハ法人ハ

超過收益ノ二割、個人ハ其一割五分ヲ取ツ
タノダ、今度ハ法人モ個人モ共ニ一割デア
ルカラ、前ノ戰時利得稅ヨリモ非常ニ輕イ
デハナイカト辯解スルカモ知レマセヌガ、
是ハ非常ナル間違デアリマス、前ノ戰時利
得稅ハ所謂戰時非常稅デアッタ、戰時非常
稅デアッタニモ拘ラズ、一割二分ノ控除ヲ
認メタノダ、今度ハ僅ノ間ノ臨時稅デア
ル、之ヲ七分シカ控除シナイト云フコト
ハ、何レノ點カラ見マシテモ、是ハ不合理
デアルト斷定シナケレバナラスト思フノデ
アリマス、況ヤ法人ニ對シ「マージン」トシ
テ二千圓ヲ控除スル、斯ノ如キ滑稽ナル法
案ハ私共ハ今マデ見タコトハナイ、二千圓
ヲ何ノ爲ニ控除スルカ、即チ一萬圓ノ會社
モ、十億萬圓ノ會社モ、同ジヤウニ二千圓
ダケ天引スル、コンナ馬鹿々々シイ法案ガ
何處ニアル、一萬圓ノ會社モ十億圓ノ會社
モ同ジク二千圓天引スル、斯ノ如キ滑稽ナ
ル法案ヲ私共ハ見タコトハナイノデアリマ
ス、之ヲ要スルニ藤井健全財政ト云フ假面
ノ下ニ、若シ無暗ニ之ヲ斷行致シマスナラ
バ、會社ハ自分ノ配當ヲ増シテ、之ヲ資本
ニ振替ヘ、所謂水脹レノ資本増加ヲ誘致ス
ル虞ガアルノデアリマス、此點ヲ深ク考慮
セスト、矛盾ノ結果ヲ招來スル危險ガ起リ
マス、要ハ我國財政ノ現狀ニ鑑ミ、公債ノ
發行ニテ事足ラザル今日ニ於キマシテ、増
稅ノ問題ヲ速ニ研究シナケレバナラスト云
フコトハ、論ヲ俟タナイノデアリマス、併
ナガラ増稅ハ畢竟稅制一般ノ整理、財政整
理、是ガ根本的ニ出來ナケレバ、即チ眞ノ
租稅ノ公平ナル負擔ヲ前提トスルニアラズ
ンバ、増稅ヲ斷行スルコトハムヅカシイト
思フノデアリマス、然ルニ現内閣ハ唯軍事

費ニ壓迫サレテ、已ムヲ得ズ一時ヲ糊塗セ
ンガ爲ニ、茲ニ突如トシテ三萬圓バカリ
ノ新稅ヲ出シタノデアリマス、ドウシテモ
斯ノ如キ狀態ヲ以テ致シマシテハ、國民ノ
信ヲ繋グコトハ出來ナイト思フノデアリマ
ス、高橋大藏大臣ハドウ云フ信念ヲ以テ、
今後此財政ヲ處置シテ行カレノデアリマ
スカ、本稅ノ説明ト同時ニ、今後ニ對スル
所ノ抱負ヲ伺フノデアリマス
只今マデマ大體私ノ質問ノ要旨ヲ終リマ
シタ、繰返シテ之ヲ略說致シマス、緒論的
ノ質問ト致シマシテ、第一ニ政治上ノ總理
大臣ノ責任ヲ問フノデアリマス、第二ハ提
案ノ趣旨目的ガ甚ダ不徹底デアルト云フコ
トニ付キマシテ、大藏大臣、殊ニ之ニ關聯
ヲ有スル軍部兩大臣ノ所見ヲ問フノデアリ
マス、第三ハ増稅ノ時機及方法ガ矛盾シテ
居ルト云フコトニ付キマシテ大藏大臣ニ問
フノデアリマス、更ニ進ンデ本論ニ入り、
第一ニ超過基準ヲ昭和五年六年ト爲シタコ
トノ不合理ヲ問フノデアリマス、第二ハ現
行ノ所得稅ト重複其他ノ點ヲ問フノデア
リマス、第三ハ超過利益ノ基準ヲ年七分
シタ理論上ノ根據ヲ問フノデアリマス、此
六ツノ問題ニ對シマシテ、關係閣僚カラソ
レゾレ明快ナル御答辯ヲ要求致シマス

マシタカラト云ツテ、ソレニ付テ私ガ二枚
舌ヲ使ツタトハ考ヘテ居リマセヌ、私ハ今
モ尙ホ一般増稅ハ其時機ニ非ズト考ヘテ居
リマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 陸軍大臣林銑十郎君
〔國務大臣林銑十郎君登壇〕
○國務大臣(林銑十郎君) 只今松村君カラ
軍部大臣ニ御尋ニナリマシタ事柄デ、御質
問ガ二ツアリマス、第一ハ軍需品ノ製造ニ
依ル利益ヲ一部ノ者ノミニ止メズ一般ニ及
ボサナイカ、第二ノ問題ハ、一部ノ軍需品
ノ製造者ノ暴利ノ取締ヲシテ居ルカ、斯ウ
云フ御質疑ノヤウニ承リマシタ、第一ノ御
質疑ニ對シマシテハ、製造ノ設備デアルト
カ、其他ノ關係上、一般ニ均霑スルト云フ
コトハ相當ニ困難デアリマスノデ、努メテ
中小工業者等ヲモ潤サヤウニ、實際ニ於テ
ハ實施致シテ居リマス、ソレカラ第二ノ軍
需工業關係ノ工業ハ非常ニ廣汎デゴザイマ
シテ、其數ハ枚舉ニ追ナイト云フ程デアリ
マスガ、今關係シテ居ル此會社ノ中デ、製
造數量ノ一割以上ヲ陸軍ノ注文ヲ以テ占メ
テ居ルト云フ會社ニ就テ調べテ見マシタ
所、其最近ノ營業期ノ配當率ハ概ネ八分以
内デアリマシテ、八分以上ノ配當ヲ實施シ
テ居ル所ノ會社ハ極メテ稀デアルノミナラ
ズ、中ニハ今尙ホ無配當ノ會社サヘ存スル
ト云フ實情デアリマス、而シテ是等軍需會
社ハ、時局前ニ於キマシテハ無配當、又ハ
極メテ低率ノ配當ヲ爲セルニ過ギナイモノ
デアリマスルガ、是等ヲ考慮シマスレバ、
之ヲ以テ必シモ不當ノ利益ヲ貪ツデアルト
ハ斷ジ得ザルモノト信ジマス、併ナガラ陸
軍トシマシテハ多額ノ軍需品ノ調達ヲ爲ス
ニ際シマシテ、技術上並ニ會計上ノ監督官

制度ヲ設ケマシテ、之ニ依ツテ軍需調達ノ
適正ヲ圖リ、是等軍需會社ヲシテ不當ノ利
益ヲ貪ルト云フコトノナイヤウニ、嚴密ナ
ル監督ヲ致シテ居ル次第デアリマス、之ヲ
以テ御答ト致シマス(拍手)
〔國務大臣大角孝生君登壇〕
○國務大臣(大角孝生君) 御答ヲ致シマス、
軍部ガ軍需工業會社ニ對スル關係ニ付キマ
シテハ、只今陸軍大臣ヨリ御答致シタ通り
デアリマス、本來此軍需品ノ單價問題ニ付
キマシテハ、昨年第二次補充計畫ノ御協賛ヲ
經マシタ時ニモ、色々御質問ガアリマシタ、
當時マダ單價ガ高イデハナイカト云フヤウ
ナ御質問ガアッタ時ニ、吾々ハ切詰メ切詰メ
テヤツテ居ルト云フコトヲ申上ゲマシタガ、
昨年四月ニ至リマシテ、御協賛ヲ經マシタ
ル所ノ豫算ヲ以テ或ル造船會社ニ注文ヲ致
シマシタ所、是デハ到底受ケラレナイ、サ
ウ云フヤウナ押問答ノ爲ニ二三箇月遅レタ
實情デアリマス、ソナラバドウ云フ所ガ
主ニ利益ヲ得タコト申シマスルニ、製鐵、
製鋼或ハ鉛、其他ノ原料品ヲ製造スル所ハ、
相當ノ利益ガアッタヤニ聞イテ居リマス、ソ
レ等ノ材料商ヨリ材料ヲ得テ、ソレヲ加工
シ、政府ニ納メル所ノ造船會社ノ如キハ
此材料高ノ爲ニ寧ロ苦シマレテ居ツタト云
フヤウナ狀態デアリマス、故ニソレ等ノ會
社ガ無法ノ利益ヲ貪ツタトハ吾々ハマダ信
ジテ居ナイノデアリマス、只今陸軍大臣ヨ
リ何分以上ノ利益ヲ得タ會社ガアルトカ、
ドウトカ云フ話ガアリマシタガ、其工場ニ
關係スル點ハ、海軍ト大同小異デアラウト
考ヘルノデアリマス、尙ホ單價ヲ成ベク安ク
シナケレバナラスト云フコトニ關シマシテ
ハ、十分監督其他ノ方法、又ハ一般ニ此世

費ニ壓迫サレテ、已ムヲ得ズ一時ヲ糊塗セ
ンガ爲ニ、茲ニ突如トシテ三萬圓バカリ
ノ新稅ヲ出シタノデアリマス、ドウシテモ
斯ノ如キ狀態ヲ以テ致シマシテハ、國民ノ
信ヲ繋グコトハ出來ナイト思フノデアリマ
ス、高橋大藏大臣ハドウ云フ信念ヲ以テ、
今後此財政ヲ處置シテ行カレノデアリマ
スカ、本稅ノ説明ト同時ニ、今後ニ對スル
所ノ抱負ヲ伺フノデアリマス
只今マデマ大體私ノ質問ノ要旨ヲ終リマ
シタ、繰返シテ之ヲ略說致シマス、緒論的
ノ質問ト致シマシテ、第一ニ政治上ノ總理
大臣ノ責任ヲ問フノデアリマス、第二ハ提
案ノ趣旨目的ガ甚ダ不徹底デアルト云フコ
トニ付キマシテ、大藏大臣、殊ニ之ニ關聯
ヲ有スル軍部兩大臣ノ所見ヲ問フノデアリ
マス、第三ハ増稅ノ時機及方法ガ矛盾シテ
居ルト云フコトニ付キマシテ大藏大臣ニ問
フノデアリマス、更ニ進ンデ本論ニ入り、
第一ニ超過基準ヲ昭和五年六年ト爲シタコ
トノ不合理ヲ問フノデアリマス、第二ハ現
行ノ所得稅ト重複其他ノ點ヲ問フノデア
リマス、第三ハ超過利益ノ基準ヲ年七分
シタ理論上ノ根據ヲ問フノデアリマス、此
六ツノ問題ニ對シマシテ、關係閣僚カラソ
レゾレ明快ナル御答辯ヲ要求致シマス

マシタカラト云ツテ、ソレニ付テ私ガ二枚
舌ヲ使ツタトハ考ヘテ居リマセヌ、私ハ今
モ尙ホ一般増稅ハ其時機ニ非ズト考ヘテ居
リマス(拍手)
○議長(濱田國松君) 陸軍大臣林銑十郎君
〔國務大臣林銑十郎君登壇〕
○國務大臣(林銑十郎君) 只今松村君カラ
軍部大臣ニ御尋ニナリマシタ事柄デ、御質
問ガ二ツアリマス、第一ハ軍需品ノ製造ニ
依ル利益ヲ一部ノ者ノミニ止メズ一般ニ及
ボサナイカ、第二ノ問題ハ、一部ノ軍需品
ノ製造者ノ暴利ノ取締ヲシテ居ルカ、斯ウ
云フ御質疑ノヤウニ承リマシタ、第一ノ御
質疑ニ對シマシテハ、製造ノ設備デアルト
カ、其他ノ關係上、一般ニ均霑スルト云フ
コトハ相當ニ困難デアリマスノデ、努メテ
中小工業者等ヲモ潤サヤウニ、實際ニ於テ
ハ實施致シテ居リマス、ソレカラ第二ノ軍
需工業關係ノ工業ハ非常ニ廣汎デゴザイマ
シテ、其數ハ枚舉ニ追ナイト云フ程デアリ
マスガ、今關係シテ居ル此會社ノ中デ、製
造數量ノ一割以上ヲ陸軍ノ注文ヲ以テ占メ
テ居ルト云フ會社ニ就テ調べテ見マシタ
所、其最近ノ營業期ノ配當率ハ概ネ八分以
内デアリマシテ、八分以上ノ配當ヲ實施シ
テ居ル所ノ會社ハ極メテ稀デアルノミナラ
ズ、中ニハ今尙ホ無配當ノ會社サヘ存スル
ト云フ實情デアリマス、而シテ是等軍需會
社ハ、時局前ニ於キマシテハ無配當、又ハ
極メテ低率ノ配當ヲ爲セルニ過ギナイモノ
デアリマスルガ、是等ヲ考慮シマスレバ、
之ヲ以テ必シモ不當ノ利益ヲ貪ツデアルト
ハ斷ジ得ザルモノト信ジマス、併ナガラ陸
軍トシマシテハ多額ノ軍需品ノ調達ヲ爲ス
ニ際シマシテ、技術上並ニ會計上ノ監督官

制度ヲ設ケマシテ、之ニ依ツテ軍需調達ノ
適正ヲ圖リ、是等軍需會社ヲシテ不當ノ利
益ヲ貪ルト云フコトノナイヤウニ、嚴密ナ
ル監督ヲ致シテ居ル次第デアリマス、之ヲ
以テ御答ト致シマス(拍手)
〔國務大臣大角孝生君登壇〕
○國務大臣(大角孝生君) 御答ヲ致シマス、
軍部ガ軍需工業會社ニ對スル關係ニ付キマ
シテハ、只今陸軍大臣ヨリ御答致シタ通り
デアリマス、本來此軍需品ノ單價問題ニ付
キマシテハ、昨年第二次補充計畫ノ御協賛ヲ
經マシタ時ニモ、色々御質問ガアリマシタ、
當時マダ單價ガ高イデハナイカト云フヤウ
ナ御質問ガアッタ時ニ、吾々ハ切詰メ切詰メ
テヤツテ居ルト云フコトヲ申上ゲマシタガ、
昨年四月ニ至リマシテ、御協賛ヲ經マシタ
ル所ノ豫算ヲ以テ或ル造船會社ニ注文ヲ致
シマシタ所、是デハ到底受ケラレナイ、サ
ウ云フヤウナ押問答ノ爲ニ二三箇月遅レタ
實情デアリマス、ソナラバドウ云フ所ガ
主ニ利益ヲ得タコト申シマスルニ、製鐵、
製鋼或ハ鉛、其他ノ原料品ヲ製造スル所ハ、
相當ノ利益ガアッタヤニ聞イテ居リマス、ソ
レ等ノ材料商ヨリ材料ヲ得テ、ソレヲ加工
シ、政府ニ納メル所ノ造船會社ノ如キハ
此材料高ノ爲ニ寧ロ苦シマレテ居ツタト云
フヤウナ狀態デアリマス、故ニソレ等ノ會
社ガ無法ノ利益ヲ貪ツタトハ吾々ハマダ信
ジテ居ナイノデアリマス、只今陸軍大臣ヨ
リ何分以上ノ利益ヲ得タ會社ガアルトカ、
ドウトカ云フ話ガアリマシタガ、其工場ニ
關係スル點ハ、海軍ト大同小異デアラウト
考ヘルノデアリマス、尙ホ單價ヲ成ベク安ク
シナケレバナラスト云フコトニ關シマシテ
ハ、十分監督其他ノ方法、又ハ一般ニ此世

ノ中ノ狀況ヲ見マシテ、今日ニ於テモ尙ホ新ニ註文スル時ニハ、其邊ノコトニ關シテ考慮ヲ加ヘテ居ルノデアリマス、要スルニ或ル工業會社ガ、豫期以上ノ利益ヲ得テ居ルト云フコトニ關シテハ、私共ハ極力注意ヲ加ヘテ居ル次第デアリマス（農村ノ問題ハドウシタ、農村ノコトハ何故閣議主主張シナイカ）ト呼フ者アリ）

其事ノ御尋方アリマシタラバ併セテ御答ヲ致シマス、私ハ自分ノ微力ト云フ點デアリマスルカドウデアリマス、昨年ハ軍縮會議、補充計畫、サウ云フモノニ殆ド頭ノ全部ヲ費シテ居ルノデアリマス、要スルニ對外關係殊ニ軍備問題ト云フ所ニ、自分ノ能力ノ殆ド全部ヲ費シテ居タト申シテ差支ナイノデアリマス、總テ餅屋ハ餅屋ノ意見ヲ聽イタ方ガ間違ガナイト考ヘテ居ル次第デアリマス（拍手、笑聲）

（國務大臣高橋是清君登壇）

○國務大臣（高橋是清君） 私ニ對シテノ御尋ハ、第一ニハ増稅ノ目的、即チ利得稅ヲ創設シタ理由ノ御尋ダッタト拜承シマシタ、是ハ申上グル迄モナク、我國ノ經濟界ハ漸次改善ノ經路ヲ辿ッテ來タノデアリマス、隨テ一部ノ産業ニハ、時局ノ好影響ヲ受ケテ大變ニ其業績ガ好クナリマシテ、益、活況ヲ呈シテ居ルト云フヤウナ事實ガ現ハレテ來タノデアリマス、而モ此節ハ其嚆モナクナリ、議論モ、世ノ中ニ近頃ナクナリマシタガ、隨分増稅論ハ從來民間ニ於テモ盛ニ唱ヘラレ、赤字公債バカリ出シチヤイカヌカラ、増稅ヲシト云フ論ハ隨分喧シカッタ、ソレ是レカラ考ヘマシテ、此特別ノ影響ヲ受ケテ順調ニ進ンデ利益ノ多イ會社、個人、サウ云フ營業ノ部門ニ對シマシテ、此好影

響ヲ得タ爲ニ増加シタ利益ノ中ノ其一部ヲ、此際國費多端ノ折デアルカラ納稅セシムルコトガ適當ナリト考ヘタノデアリマス 第二ハ、ドウモ増稅ノ時期ト方法ガ宜クナイト云フ、且又政府ハ國策審議會ト云フヤウナモノヲ設ケルト云フ嚆モアリ、計畫モアルト云フヤウナコトデアアルガ、サウ云フモノガ出來テカラ時期ナリ方法ヲ能ク定メル方ガ、當リ前デアラウト云フ御考ダト思ハレルケレドモ、是ハ決シテ一般の増稅ノ意味ヲ以テヤッタノデハナクシテ、要スルニ茲ニアリマス通り臨時ノ課稅デアリマスカラシテ、一般ノ本稅ヲ審議スルモノデハナク、根本ニ於テ其審議ニハ觸レナイコトニナツテ居ル、ソレカラ又昭和五年、六年ト云フモノヲ採ツタノハドウ云フ譯カ、成程昭和五年、六年ト云フモノハ不況ノ時代ニアリマシタ、其不況ノ時代ヲ本稅ノ基準トシタノハ、ドウ云フモノダト云フ御尋ノヤウデス、前申ス通り、此臨時利得稅ハ、時局ノ好影響ヲ受ケテ増加シタル、其利益ノ一部ヲ納付セシメルト云フ趣旨デアリマシテ、其利得ヲ計算スルノ基準ヲ定メネバナラヌ、而シテ其基準ハ、此好景氣ニ轉ジテ來タ前ノ時期、前ノ經濟界ノ情勢、ソレヲ基準ニスルガ適當ナリト考ヘタノデアリマス、此經濟界ノ景氣ノ好轉シテ來ル前ノ時期ヲ、成タケ近イモノヲ基準トスルガ宜イト、斯ウ考ヘタノデアリマス、即チ御承知ノ通り、我國ノ經濟界ハ漸次恢復シテ參ッタノハ、昭和七年以降ノコトデアリマス、其以來即チ時局對策ノ實行セラル、ニ從ッテ、一部ノ産業界ハ非常ナ好況ヲ呈シテ來タノデアリマス、ソコデ昭和五年六年ヲ以テ基準トシタノデアリマス、併ナガラ此當時ノ

事業界ハ、即チ五年六年ト云フモノハ、景氣ガ極ク惡カッタノデアアル、サウ云フ惡イ時ヲ基準ニシタノデアリマスルカラ、其當時ノ實績ヲ其儘ニ基準トシテ採用セズ、法人ニ付キマシテハ諸積立金等ヲ含シタ所ノ、其資本金ノ年七分ニ該當スル利益ノアルモノト假ニ見テ居ルノデアリマス、又個人ニ付キマシテハ三千圓ノ利益ガアツタモノト見テ、之ヲ基準トシタノデアリマス、ソコデ其積立金ヲ含シテ居リマス、此資本金額ノ拂込バカリヂヤナイ、即チ積立金マデモ含メタ其資本ニ對シテ、年七分ノ利益アルモノト云フコトヲ基準トシタノデアリマス、即チソレハ當時ニ於テ相當ナリト考ヘラレルノデアリマス、ソレ故ニ七分ヲ適用シマシタノハ、當時ノ不景氣ノ爲ニ業績ノ惡カッタモノデモ、先ヅ七分ノ利益ヲ得タモノト見テ、稅法ノ苛酷ナル結果ヲ避ケルコトニ致シタノデアリマス

第四ノ御尋ハ、法人ニ付テハ寧ロ現行ノ超過所得稅ト重複シヤセヌカト云フ御尋デアリマスルガ、法人ノ超過所得稅ハ、其利益ガ一定ノ資本ノ利廻ヲ超ユル場合ニ於テ、一般的ニ是ハ課稅スルモノデアリマサルガ、此臨時利得稅ハ、即チ時局ノ影響ニ依ッテ増加シタル利益ニ課稅スルノデアリマスルカラ、即チ其課稅ノ根本觀念ガ違ッテ居ルノデアリマス

是デ大抵盡シテ居ルヤウデアリマスガ、何分ハ細カナ計算カラ出タリナンカシテ居リマスノデ、私ヨリハ寧ロ政府委員ノ方ガ御分リ宜イヤウニ御説明ガ出來ルカモ知レマセヌ（拍手）

○松村光三君 簡單デアリマスカラ議席カラ御許シテ願ヒマス——只今總理ノ御答辯ヲ伺ヒマス、一般的ノ増稅ハ此際シナイ、サウ云フコトヲ言ハレルコトガ惡イ、此際ト云フノハ今日ノ事デアアルカ、苟モ一國變理ノ任ニ當ル者ガ、先ノ見透シヲ考ヘズニ、此際ナド、云フ其場限リノコトヲ言フノガ惡イ、ソレガ世間ノ疑惑ヲ招ク所以デアアル、故ニ増稅ニ關シテ何事モ言ハヌナラバ免ニ角モ、此際ト云フヤウナ、サウ云フ一時のノ辯明ヲスルコトハ、却テ他日社會ニ禍ヲ爲ス根幹ニナリマスガ故ニ、斯ル意味ニ於キマシテ總理ノ言動ハ、モウ少シ御慎重ニ御考ヲ願ヒタイノデアリマス、更ニ海軍大臣ハ、ドウモ自分ハ專門外デアアルカラ分ラスト言ハレマシタガ、アナタノ部下デアアル所ノ末次將軍ハ、昨日衆議院全部ニ向ッテ軍縮其他ニ關スル書類ヲ配付サレタ中ニ、先程私ガ申シマシタヤウニ、國防ノ三大要義ノ一ツハ國民生活ノ安定ニアルト云フ「パシフレット」ヲ吾々ニ配ッテ、之ヲ見ロト言ッテ居ラレル、アナタノ部下ガ斯ノ如キコトヲ言フノハ當リ前ノコトデアアル、當リ前ノコトデアアルカラ、是レ位ノコトハアナタモ御研究ナサレテ、末次サンカラ聞カレテ、サウシテ或ル種ノ信念ヲ有ッテ此處ニ臨マレルコトヲ願フノデアリマス、殊ニ動モスレバ軍事豫算膨脹ノ結果——結果ト云ヘバ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、或ル意味カラ言ヘバ結果ト云ッテ差支ヘナイト思フ程、農村豫算ガ壓迫サレテ居ルノデアリマスカラ、此意味ニ於キマシテ軍部兩大臣ハ慎重ナル研究考慮ヲ願ハナケレバナラヌ、此意味ニ於キマシテ何ッタノデアリマス、又陸軍大臣ハ、今日軍需關係ノモノデ、八分以上ノ配當ノ會社ハナイト言ッタガ、是ハ私ハ多少專門ニ調ベテ居リマスガ、他日委員會ニ

譲リマス、殊ニ若シ材料供給ノ會社ニ於テ暴利ヲ貪ルモノガアルナラバ、何故ニ商工大臣ト連絡ヲ取ツテ、産業統制法ノ發動ヲ爲サヌノデアリマスカ、斯ノ如キ材料供給會社ガ暴利ヲ貪リテ居ルコト云フコトガ、明瞭ナル現狀ニ對シマシテ、軍部大臣ハ何故默シテ居ルカト云フコトヲ伺フノデアリマス、大藏大臣ノ只今ノ御答ハ遺憾デアリガ、細カク御答ニミナツテ居ラヌデヤナヤカト思ヒマスカラ、何レ委員會ニ於キマシテ政府委員カラ伺ヒマスガ、要スルニ大藏大臣ノ御答ハ三千万圓ト云フガ、三千万圓バカリノ増稅ヲ取ルノニ、或ハ是ガ社會政策的ダトカ、或ハ租稅ノ公平ナル負擔デアルトカ、或ハ是ガ收入式デアルトカ、餘リ三千万圓ノ課稅ヲ爲サルノニ、才膳立ヲ仰々シク御説明ナサレテモ、ソレハ吾々ハ諒解シナイト云フ意味ヲ申上ゲタノデアリマス、才膳立ハ餘リナサラヌ方ガ宜シト云フ意味ヲ以テ、此提案ノ理由ガ徹底シナイト申シタノデアリマス、尙ホ其外一般増稅デナイカラト言ハレタガ、一般増稅デナクテモ是ガ或ハ所得稅、或ハ營業收益稅ノ慣例ヨリ致シマシテ、或ル意味ニ於キマシテハ、一般増稅ニナルカラ御注意ヲ促シタノデアリマス、尙ホ申上ゲタイ事ハ多々アリマシガ、細目ニ付キマシテハ又他日適當ノ機會ニ政府委員其他カラ伺ヒマシテ、本問題ヲ解決致シタイト思ヒマス(拍手)

○議長(濱田國松君) 次ノ通告者森田福市君

(議長退席、副議長著席)

(森田福市君登壇)

○森田福市君 只今上程ニナツテ居リマス臨時利得稅法ニ對シマシテ、同僚松村君カ

ラ御尋ニナツタノデアリマスカラ、重複ニナル點ハ避ケマシテ、簡單ニ私ハ具體的ニ要旨ヲ御尋シテ見タイト思ヒマス、總理大臣ノ今ノ松村君ノ質問ニ對スル御答辯ヲ承ツテ居リマス、増稅ヲシナイト言ウタノハ、一般増稅ヲシナイト言ツタノデアアル、一部ノ増稅ニ付テハ何トモ言ツテ居ラヌト云フヤウナ御答辯ガアツタノデアリマスガ、苟モ一國ノ總理大臣ガ國民ノ負擔ヲ増加サスヤウナ事、即チ増稅ヲスルトカシナイトカ云フヤウナコトハ、私ハ輕々ニ事前ニ聲明サルモノデハナイト考ヘルノデアリマス、又此利得稅ノ問題ガ、果シテ私ハ總理大臣ノ頭ニ本當ニ入ッテ居ルノデアラウカ、先程大角海軍大臣ハ、何ノ事デアツタカハキリハ致シマセヌデシタガ、餅ハ餅屋ニ委シテ置クノダ、即チ稅金ノ事ハ大藏省ニ委シテ置クノダト云フ意味ニ拜聽シタノデアリマス、果シテサウデアアルナラバ、今此席ニ於ケル大藏大臣ノ答辯ハ何デアツタカ、餅屋デアルコト、私ハ承ツタノデアリマス、十分ニ入ッテ居ラヌカラ、總理大臣ノ答辯モ、大藏大臣ノ答辯モ、何レモ質問ノ要旨ニ觸レテ居ナカッタヤウニ私ハ考ヘルノデアリマス、去リトテ斯ウ云フ重大ナ問題ノ御答辯ヲ、事務官ナドガ紙片カ何カニ書イテ來タモノヲ讀ミニシタ答辯デハ満足致シマセヌ、總理大臣ナリ、大藏大臣ナリガ、本當ニ自分ノ思ッテ居ラレル意味ノ答辯ヲセラレンコトヲ前以テ切望致シテ置キマス

云フモノヲ新設セラレルノデアリマスガ、臨時ト云フ文字ガ冠セテアル、果シテ私ハ是ガ臨時的ノモノデアルカ、勿論政府ハ臨時デアルト御答ニナルデアラウト考ヘルノデアリマスガ、斯ウ云フ新稅ヲ設ケラレタコトガ私ハ宜クナイ、何故宜クナイカト言フト、政府ノ一般歳入ヲ寧ロ減ジテ來ヤシナイカ、自然増收ガ減ジテ來ヤセヌカト云フ考ヲ有ッテ居ルノデアリマス、一タビ此問題ガ藤井前藏相ニ依ツテ、世上ニ臨時利得稅ヲ起スノデアルト宣傳セラレタ時ノ財界ハドウデアツタカ、有價證券ノ値下リ、若ハ物價ガ非常ニ下リ掛ケタノデ、政府ハ慌テタデハアリマセヌカ、慌テ、色々ナ人々ヲ大藏大臣官邸ニ來サシテ、サウシテ聲明ニ努メラレタコトハ御承知ノ通りデアリマス、私ハ此臨時利得稅ト云フモノヲ設ケテ、三千万圓餘ノ増稅ヲ圖ラウトセラレテ、却テ一般收入及自然増收ト云フ方面ニ、ソレ以上ノ減額ヲ來シハセヌカドウカト云フコトヲ承ツテ見タイノデアリマス、有價證券ノ値下リ、或ハ物價ノ下落ニ依ツテ、一般ノ證券會社、保險會社、銀行、其他ノ營利會社ナリ、個人ガ有ッテ居ル所ノ證券ノ値下リヲ、決算ニ於テドウシテモ現ハサナケレバナラス、サウ云フ結果ガ勢ヒ所得稅ナリ、營業收益稅ナリ、本稅ヲ課シテ行クコトヲ減サナケレバナラスヤウニナリハセヌカ、斯ウ云フ稅ヲ起シテ、財界ニ芽生エ掛ケテ居ルモノヲ摘ミ取ツタガ爲ニ、事業ナドハ起リ掛ケテモ、何レモ皆中止ノ形ニナリ、新會社ノ拂込ノ株券ハ、何レモ其拂込額面ヲ割ツテ行ク、隨テ第二回ノ拂込ガ出來ナイカラ、目的ノ事業ヲ達成スルコトガ出來ナイヤウナ狀態ニ現在ナリツ、アルコトハ、政府當局ノ

御承知ノ通りデアリマス、サウ云フ方面カラ考ヘテ見マスレバ、此稅法ヲ設ケタガ爲ニ、却テ政府ノ一般收入ヲ妨グルノデヤナイカ知ラン、三千万圓ヤソコラデハナイ、ヨリ以上ノ減收ヲ來ス虞ガアリハセヌカト私ハ疑フノデアリマス、又臨時ニ政府ガ三千万圓ノ金ヲ得ルガ爲ニ、此稅法ヲ設ケタルト云フノデアアルナラバ、敢テ此際ニ不人氣ナ臨時利得稅ナドト云フ名目ヲ打ツタ新稅種目ヲ設ケズトモ、他ニ幾多ノ方法ガアルデアラウト思フノデアリマス、三千万圓ヤ四千万圓ノ財源ヲ得ルコトハ左程難事デナカッタウト考ヘラレルノデアリマス

第一ニ政府ハ斯ウ云フコトヲ御氣附ニナラナカッタカ、今度ノ稅金ハ、軍需景氣ニ依ッテ儲ケテ居ル方面カラ取ルノデアアル、即チ輸出業者、若クハ軍需方面ニ色々ナ物ヲ供給シテ居ル、即チ軍需景氣ニ依ッテ利益ヲ得タル方面ニ課稅スルノデアアル、斯ウ言ウテ居ラレルノデアリマス、果シテサウデアアルナラバ、所謂一部ノ財閥ノ方面ニ、非常ナ利得ヲシタカラ此稅金ヲ課セヨウト云フ、社會政策的ノモノヲ加味シタ稅デアツタナラバ、之ヲ此儘遂行スレバ勿論國民一般ノ負擔ニナルヤウニナル、稅金ハ御承知ノ通りニ、稅ヲ納メル人自ラガ負擔スルノデハナクシテ、其人々ハ必ズ自分ノ賣ッテ居ル物ニ課ケテ行クナリ、製造シテ居ル物ニ其稅金ヲ加ヘルナリシテ賣ルノデアリマスカラ、轉嫁稅トナツテ行ク結果ハ、消費者全部ガ之ヲ負擔スルコトニナルノデアリマス、サウ云フ方面ニ持ツテ行カズトモ、例ノ露西亞ノ政變ガアツタ時ニ、財閥方面ニ約二億圓ノ貸金ガアルコトハ政府ノ御承知ノ通りデアリマス、即チ其當時貸出ヲ受ケタ財閥ト

稱スル人々ノ方面ガ、今度ノ軍需景氣ニ依ツテ、儲ケテ居ル儲ケ頭デハアリマスマイカ、サウスレバ此二億圓ヲ六七七年ノ年賦ニ依ツテ徴收スレバ、凡ソ三四千萬圓ノ財源ヲ得ラレルノデアリマス、又露西亞ニ大變ナ輸出ヲシテ、當時ソレヲ政府ニ泣付イテ、政府カラ二億圓借出シタ連中ガ、今度ノ好景氣ノ御蔭ヲ受ケテ大變儲ケテ居リ、又軍需方面ノ御用ヲ承ツテ、此方面ニ非常ナ利益ヲ得テ居ル方面デハナイデアリマセウカ、サウスレバ無理ニ其税金ニ依ツテ一般國民ニ負擔ヲサセズニ、三四千萬圓ノ財源ヲ得ルコトハ易々タルモノデアッタト考ヘラレルノデアリマス、何故只今ノヤウナ方面ニ政府ハ氣附カナカッタノデアルカ、若夫レ國民ノ負擔ノ均衡ヲ圖ル意味デ此利得稅ト云フモノヲ設ケルト云フナラバ、ソレハ當ツテ居リマセヌ、國民ノ負擔ノ均衡ヲ保ツノニハ、眞ノ稅制整理ヲ行ハナケレバナラスノデアリマス、即チ新稅ヲ設ケナケレバナラスト同時ニ、減稅モヤラナケレバナラスノデアリマス、斯ウ云フ方面ノ整理ヲ思切ツテ斷行シナケレバナラスノデアリマスカラ、一部ノ三千萬圓ヤ四千萬圓ノ臨時利得稅ヲ設ケタ位ナコトデハ、負擔ノ均衡ヲ保ツコトノ出來ヌコトハ申スマデモアリマセヌ、又隨テ一部ノ財閥、一部ノ此軍需景氣ニ依ツテ所得シタ者ニ稅ヲ課セヨウト云フノナラバ、稅ニ依ラズニ貸金ノアルモノヲ年賦ニ依リテ取立テレバ十分デアルト考ヘラレルシ、又ソレダケノ餘裕ハ生ジテ來ルノデアリマス、其人々ハ稅ニ依ツテ納メヌデモ、借金ヲ返シタラ宜シイ、ソレニ依ツテ財源ハ十分得ラレル、斯ウ云フ二ツノ方面カラ考ヘル、即チ此稅ヲ起スト一般

政府ノ收入ヲ減ジテ來ルカラ、起サヌ方ガ宜カッタと思フガドウカ、必ズサウナル、或ハ三四千萬圓ノ財源ガ欲シカッタノデアルト云フノナラバ、露國政變ノ時ノ貸金ノ二億圓ヲ、此際年賦デ取立テレバ宜カッタデハナイカ、斯ウ思ハル、ガ、政府ハ一體ドウ云フ考カト云フコトガ一點デアリマス、又此臨時利得稅ニ依ツテ、三千萬圓餘リノ政府ガ收入ヲ得タ金ハ、一體ドウ方面ニ使フノデアルカト云フコトハ、先般來政府ノ施政方針演說ニ對スル同僚諸君ノ質問ニ依ツテ爲サレタノデアリマスルガ、政府ノ答辯ハ何時モ明瞭ヲ缺イテ居リマス、若シ斯様な場合デス、從來ノ例ナドニ依ツテ見マスト、斯ウ云フヤウニ一部ノ國民ニ負擔ノ増加ヲ與ヘルヤウナコトヲスル際ニハ、一方一部ノ國民ニ施スコトガアリ、又國家有事ノ際ニス様ナ新稅ト云フモノハ設ケラレテ居ルノデアリマス、農村デアリ、中小ノ商工業者ヲ救済スル方面ニ此金ヲ使ハウト云フノナラバ、又考慮ノ餘地ガアルノデアリマスルガ、此稅ヲ設ケラレタコトヲ、新聞紙上其他ニ依ツテ拜承シテ居リマスルト、私ハサウ云フ施設ニナツテ居ラスノデハナイカ知ラン、即チ政府ノ歳出ガ決ラナイ先ニ歳入ヲ決メテ、歳入トナルベキ新稅ヲ設ケルト云フコトヲ仰シヤッタデハアリマセヌカ、サウスルト此金ノ使途ト云フモノハ何レニ向ケラレタンデアルカト云フコトハ、豫算要綱ニ依ツテ見テモ、政府ノ施政方針演說ニ依ツテ見テモ、窺ヒ知ルコトガ出來ヌノデアリマス、若夫レ赤字公債ノ缺陷デアル、斯ウ云フ説明ナラ吾々ハ肯定スル譯ニ參ラヌ、赤字公債八九億圓ノ發行ニ對シテ、僅ニ三千萬圓ヤソコヲ稅金ニ依ツテ補填ヲシヨウ

ト云ウテモ、燒石ニ水デアリマス、ソレハ天井カラ目藥ト云フカ、足シニモ足リニモナル問題デハナイ、寧ロソレヨリカ、歳出ノ方ヲ御儉約ニナツタラ宜シイ、歳出ノ儉約ト云ウテモ、亦是ガ色々アリマセウ、併ナガラハ申スマデモナク、屢、此境上デ問題ニナツテ居ル此國防費、尤モ國防費ニ付テハ、國防費ガ多イト云フヤウナ議論ハナイト云フヤウニ大藏大臣ハ先般仰シヤッタデアリマスガ、私ガ聽イテ居ルノニ、ドウシテモ偏重偏輕ノ豫算デアル、斯ウ云フコトヲ議論サレテ居ルコトハ、即チ産業方面ニハ豫算ガ少イ、然ルニ國防費ニハ豫算ガ多イト云フコトヲ論ジテ居ルト私ハ承知シテ居ルノデアリマス、然ラバ此方面ニ於テ三千萬圓、四千萬圓ノ節約ハ、十億圓ノ金カラ節約シヨウト思ヘバ、敢テ難事デハアリマスマイ、殊ニ私ハ軍部大臣ニ一言申上ゲテ置キタイト考ヘルノデアリマスガ、軍部大臣ハ此壇上ニ立ツテ、何時モ節約緊縮シテ居ル、斯ウ仰シヤッタデ居ラレマス、或ハサウカモ知レマセヌ、近來ハ觀艦式ナドニ行ツテモ從前ト、議員ナドニ對シテノ待遇ハ、成程粗末ニナツテ居ル(笑聲)是ハ成程私ハ肯定致シマスガ、ソレハ唯單ニ吾々ニ見セル爲ニオヤリニナツテ居ルノデアッデ、一事ガ萬事斯ウデアルトハ私ハ思ウテ居ラス、寧ロ單價ノ方面ニ於テ、私ハ之ヲ三分程度ノコトデアル、所謂十億圓ニ對スル三千萬圓ハ三分ノ節約デアルカラ、註文物件ノ單價ヲソレ位安ク買ハル、コトハ、敢テ私ハ難事デヤナイト思フ、隨テ此新稅ナドヲ起サヌデモ、三分ヤソコヲハ歳出ノ方面ニ於テ節約ガ出來ル餘地ガアル、斯様ニ考ヘラレルノデアリマス、又其他ニ今回ノ此稅法ニモ脱

稅ガ出來ルヤウニナツテ居ル、合法的脫稅、現在デモ財源ヲ新ニ求メルノナラバ、此不人氣ナ新稅ヲ設ケヌデモ、大藏當局ハ私ハ氣ノ付カレテ居ル點ガ多々アルデアラウト思フ、御承知ノ此外債、日本國ガ發行シテ居ル、外國人ノ持ツテ居ルト稱シテ居ル色々ナ外債ト云フモノガ、今日ハ日本ヘ大變戻ッテ來デ居ル、大變戻ッテ來デ、日本人ガ大變此外債ヲ所有シテ居ル、此者ニ對シテ、六分半若クハ五分半ト云フ高利ヲ拂ッテ居ルノニ對シテ、御承知ノ通りニ所得稅モ、資本利子稅モ一厘モ課セラレテ居リマセヌ、斯ウ云フ方面ニ對シテ、日本人デアリ、内地デ發行サレタ公債ヲ持ツテ居ル者ハ、所得稅ナリ、資本利子稅ヲ負擔スルシ、外國デ發行サレテ居ルモノヲ日本人ガ買ツテ持ツテ居ル者ハ、非常ナ高利ニ有付キナガラ、其上一錢一厘ノ資本利子稅モ、所得稅モ課セラレナイト云フコトニナツテ居ル、是ハ法律上ノ不備デアリマス、是ハ改正シタラ宜シイ、議會ハ提案シテ、斯ウ云フ日本人ガ持ツテ居ル外債ニ對シテ、資本利子稅ナリ、或ハ所得稅ヲ取ルト云フコトハ、敢テ難事ノ問題デヤナイ、之ニ依ツテモ二千萬ヤ三千万ノ財源ヲ得ルコトハ、私ハソレ程困難ナコトデハナイト考ヘルノデアリマス、此財源ハ幾多アルノデアル、又之ヲヤッタ結果ガ、政府ノ歳入ヲ少クスル虞ガアルナラバ、縱カラ論ジテモ、横カラ論ジテモ、私ハ此臨時利得稅ト云フヤウナモノヲ、此際此財界ニ不向ナモノヲ實行スルコトガ、私ハ政府ノ得策デアルカドウカ、否、國家ノ爲ニナルカドウカト云フコトヲ考ヘマヌルナラバ、私ハ寧ロ不利益デハナイカト考ヘルノデアリマスルガ、總理大臣ハ一體ドウ御考

ニナッテ居ルカ、是ガ第一ノ御尋デアリマス
又私ハ斯ウ云フ點モ——補フ點ニ澤山財
源ノ點ハアルト思フ、吾々ガ進ンデ政府ニ
財源ヲ御話スルコトハ又ドウデアルカトモ
考ヘルノデアリマスガ、併ナガラソレハ政
府ノヤリ方ガ公平ヲ缺イテ居ルカラ、私ハ
尋ネテ見ルノデアリマスガ、臨時利得稅ト
云フヤウナモノヲ設ケテ、一部ノ國民ニ負
擔ヲサスニ當ッテ、營業者ノミニ之ヲ課スル
營利法人ト營業ヲ行フテ居ル個人、此二者
ニ限ッテ居ルノデアリマス、然ルニ私ハ寧ロ
軍需景氣ニ依ッテ利得ヲ得テ居ル者ハ、營業
スル者ヨリモ此方面ニ資本ヲ投下シテ居ル、
即チ資本家、即チ會社ノ株券ヲ持ッテ居ルト
カ、何トカ云フヤウナ方面ノ方ガ、金融資
本家ノ方ガ非常ニ所得ヲ増シテ居ルノデヤ
ナイノデアルカ、營業ヲヤラズニ、實際ニ
其營業ヲヤッテ居ル產業資本家ニ資本ヲ供
給シテ居ル金融資本家ノ方ガ、私ハ利益ヲ
多ク取ッテ居ルト考ヘルノデアリマス、此方
面ノ所得ニ對シテハ一錢一厘ノ利得稅ヲモ
課セズ、第一線ニ立ッテ、金融資本家カラ資
金ヲ仰イデ——實際ニ產業ノ一線ニ立ッテ
居ル者ニノミ是ガ課稅ヲスルト云フコトハ、
私ハ公平ヲ得タモノト考ヘラレヌノデア
リマス、一體此稅ト云フモノヲ課スルニ付
テハ、餘程研究シナケレバナラス、大藏省
ノ事務當局ナドガ、机ノ上デ三五人寄ッテ色
色ナ議論ヲヤッテ居ル位ノコトデ、直チニ新
稅ヲ設ケルト云フコトハ誤ッテ居ルト思ヒ
マス、實際ノ社會ニ接觸シテ、實際ニ色々
ナ納稅者トナッテ居ル者トモ研究ラシ、交渉
ヲシ、サウシテ十分ニ此議ヲ練ッテ、サウシ
テヤラナケレバ色々ナ不公平ガ起ッテ來ル、
此利得稅ノ如キモノデモ、只今私ガ申上ガ

ルヤウニ、實際ニ一線ニ立ッテ居ル者バカ
リカラ取ッテ、後ロニ居ッテ懷ロ手ヲシテ儲
ケテ居ル者ニハ、一錢一厘ノ負擔モサセヌ
ト云フヤウナ稅ト云フモノハ、現在、今後
設クルベキ性質ノモノデハナイト私ハ考ヘル
ノデアリマス(拍手)又政府ハモウ一ツ歳入
方面ニ於テ考ガ及バヌ所ガアルト思フ、御
承知ノ通りニ是ハ大藏省ノ任事デアリマス
ガ、大藏省ハ銀行ノ配當ニ非常ナル制限ヲ
加ヘテ居ル、銀行ノ配當ニ非常ナル制限ヲ
加ヘ、砂糖會社ノ配當ニ非常ナル制限ヲ加
ヘテ居ルガ、是等ヲシテ十分ニ配當ヲセシ
メタナラバ、其法人カラ上ッテ來ル所得稅モ
政府ノ增收ヲ來シ、其配當金ヲ貰ッテ個人カラ
モ第三種所得稅ト云フモノガ相當ニ入ッテ
來ルノデアリマス、而モ近來ハ銀行ノミガ
殘ッテ居ルノデアリマスルカラ、此近來ノ銀
行ハ、是ハ產業ニ資本ヲ投下スルト云フヨ
リモ、寧ロ是ハ證券ヲ引受ケテ、證券會社
ニナッテ居ルヤウナ感ヲ深ク致スノデゴザ
イマス、何レモ政府ノ賣出ス所ノ公債ヲ、
年四分五厘程度ノモノヲ買受ケテ、定期預
金ノ三分五厘ノモノヲ預ッテ、其利鞘デ經
費ヲ賄フタ餘リヲ配當ニ振リ向ケテ居ル、
其處ニ持ッテ來テカラニ、公債ナリ株券ナリ
ガ非常ナ値上リヲ生ジ、此非常ナ値上リヲ生
ジタモノ、利益ヲ一々計上スルナラバ、銀
行ノ持ッテ居ル證券利益ト云フモノハ、莫大
ナモノデアリマス、斯ウ云フ方面ノ莫大ナ
利益ヲ得テ居ルノデアルカラ、配當金ノ制
限ナドヲ大藏省ノ銀行當局者ガ加ヘズニ、
十分ニ之ニ利益ノアツタモノハ、配當サスヤ
ウニシテ行ケバ、保留所得ノ増額ヲ來スヤ
ウナ決算モセヌカラ、隨テ法人所得モ殖エ
ルシ、又配當金ヲ貰ッテ第三種ノ個人所得

モ政府ニ相當ニ入ッテ來ル、又砂糖會社然リ、
高率關稅ノ恩典ニ浴シテ、莫大ナル利益ヲ
擧ゲツ、アル所ノ砂糖會社ニ對シテモ、先
年ノ明糖事件ガアツタ關係カドウカ知ラヌ
ガ、今日ハ此砂糖會社ニ配當ノ制限ヲ加ヘ
テ——尤モ個人トシテ言フノダト云フコ
トヲ御話ニナツタサウデアリマスガ、個人ト
シテ言ハレヤウト、公人トシテ言ハレヤウ
ト、監督ヲ受ケル會社ノ方デハ恐縮シテ政
府ノ言ハレルコトヲ守ッテ居ルノデアリマ
ス、隨テ斯ウ云フ方面ニ莫大ナ利益ガ上リ
ナガラモ配當ヲスルコトガ出來ヌカラシテ、
此第三種所得ノ收入ニ付テハ、相當ナ影響
ヲ來スノミナラズ、產業ノ發展發達ヲモ、
是ガ爲ニ私ハ阻止シテ居ルト考ヘラレルノ
デアリマスガ、政府ハ今尙ホ其點ニ氣付カ
ズニ居ルノカ、氣付イテ居ルデモ、此銀行ノ
配當及砂糖會社ノ配當ニ付テ、制限ヲ加ヘ
ル積リデアアルカドウカ、此點モ明瞭ニシテ
戴キタイト考ヘマス、又先程モ松村君カラ
御話ガアツタノデアリマスルガ、昭和五六年
當時ノ收入ヲ以テ今日ノ收入ト比較ラシテ、
其差額ニ對シテ一割ノ課稅ヲスルト仰シ
ヤルノデアリマス、昭和五六年ガ我國ノ
產業界ノ整理時期トデモ申シマセウカ、不況
ノ絶頂デアッタコトハ御承知ノ通りデアリ
マス、併ナガラ其當時ノ圓價ト云フモノハ、
今日ノ圓價トハ大變相違ガアリマス、其當
時ハ金ヲ解禁シテ、圓價ト云フモノガ非常
ニ價值ガ高カッタ時代ノモノデアアル、今日ハ
金ガ再禁止ニナツタ結果、爲替ノ關係上圓
ト云フモノ、値打ガ非常ニ下ッテ來タ、其
高カッタ時ノ時代ヲ標準ニシテ、最も低イ今
日トヲ見較ベテ、之ニ課稅ヲスルト云フヤ
ウナコトガ、合法ナル課稅ト斷定ガ出來ル

デアリマセウカ(拍手)此點ハ大藏省當局ハ
御氣付ニナラヌト云フコトヲ、私ハ遺憾ニ
思フノデアリマス、又色々ナ税金ノ種類
ヲ——稅法ヲ改正シタリ、新設シタリスルト
云フヤウナ關係上、此徵稅官吏ト云フ方面
ニ向ッテ、此人々ガ、每期言フコトデアリマ
スガ、苛斂誅求ヲヤッテ居ル、ソレハドウデ
アルカト云フト、實際ヲ調ベテ見ルト、一
線ニ立ッテ居ル徵稅官吏ノ數ト云フモノハ
大變少イ、徹夜ヲシテ營業收益稅ヲ所得稅
ヲ決定シテ居ル、斯ウ云フヤウナコトニ對シ
テ政府ハ色々企圖スルケレドモガ、此方面
ノ豫算ヲ御取リニナッテ、十分練達堪能ノ士
ヲ稅務署ノ第一線ニ置カレルナラバ、苛斂誅
求ト云フヤウナコトハナクシテ、眞ニ眞劍
ナル課稅ガ加ヘラレルノデハナイカト考ヘ
ル、稅務署ノ豫算ノコトハ、一寸新聞紙デ
拜見シタノデアリマスルガ、關西ノ大富豪
乾家ノ財產稅ガ、行政裁判所ニ於テ半額ニ
減ゼラレタト云フコトハ御承知ノ通り、是
ハ稅務署ノ官吏ガ杜撰極マル課稅ノ仕方ヲ
シテ居ッタコトガ明ニナツタノデアリマス、
是等ニ對シテハ一體政府ハドウ云フ處置ヲ
執ツタカ知ラスガ、兎モ角サウ云フ風ニ一線
ニ立ッテ居ル稅務官吏ヲ、優遇セヌト云フ
カ何ト云フカ、數ガ足ラヌト云フカ、其何
レニシテモ、此納稅者ニ當ルニ餘リニ薄情
ソレヲ責メルト云フト忙シイカラダト言フ、
成程忙シイ、其點ハ私ハ諒トスル、ソレナ
ラバ一線ニ立ッテ居ル徵稅官吏ニ對シテハ
相當ナル優遇ヲシ、人員ヲ増シテ、國民ニ
對シテハ親切ナル取扱ヲシテ、少クモ苛斂
誅求ノナキヤウ期セラレンケレバナラヌト
思フノデアリマスガ、此點ハ何ト考ヘラレ

マスカ

最後ニ今一點御尋申上ゲマスガ、是ハ此法案ニ直接關係シタコトデアリマスガ、此法案ヲ讀ンデ行ッテ見ルト云フト、住居住所ノ内地ニ有シテ居ル者ガ——即チサウ云フ人々ガ、樺太ナリ、臺灣ナリ、滿洲ナリ、朝鮮ナリデ事業ヲ行フテ得タ所ノ金ニ對シテハ、利得稅ヲ納メナケレバナラスノデアリマス、然ルニ朝鮮ヤ、臺灣ヤ、樺太ヤ、滿洲ニ住居住所ヲ有シテ居ッテ、其地デ營業ヲシタ者ハ負擔セズニ濟ム、住居住所ノ内地ニ有シテ居ルガ爲ニ、此課稅ヲサレルト云フコトハ甚ダ迷惑千萬デハナイカ、ソレハ公平ナル課稅デハナイ、其種ハ公債ノ資本利子稅ヤ色々ナ稅金ニアルヤウニ、此内地ト外地ノ區別ガハッキリシテ居ラス、隨テ法ニ不備ガアル、現在重要産業統制法ノ如キモノデモ、十分ニ私ハアノ權威ヲ發揮シテ居ラスト思フノハ、内地ト外地ノ關係ガハッキリシテ居ラスカラ、斯様ナ風ニナッテ居リマスガ、此臨時利得稅ニ付テモ、結果ハサウ云フ風ニナッテ來ル、住居住所ハ内地ニ有ッテ居ルダケデ、外地デ仕事ヲシテ居ル者ハ直チニ稅ヲ納メナケレバナラス、併シ外地ニ住居住所ヲ有ッテ居ッテ、外地デヤッテ居ル者ハ何ノ關係モナイト云フコトハ、此反對ヲ行ヒサヘスレバ合法的脫稅行爲ガ行ハレルト考ヘラレマスガ、立法ニ際シテドウ云フ考デ斯様ナ杜撰ナルモノヲ、御出シニナッタルデアリカト云フコトヲ承リタイノデアリマス、甚ダ御尋申上ゲルコトヲ具體化シ過ギタノデアリマスケレドモ、明瞭ニ御答アラコトヲ希望致シマス（拍手）

（國務大臣岡田啓介君登壇）

○國務大臣（岡田啓介君）

森田君ノ御質問ニ御答致シマス、森田君ハ此臨時利得稅ハ、之ヲ以テ負擔ノ均衡ヲ得ヨウトスルナラバ大ナル間違デアル、又コンナ稅ヲ設ケナクトモ、外國ニ貸シテアル金ヲ年賦デ取上ゲレバ宜イデハナイカ、又他ニ幾ラデモ起スベキ新稅ハアルデハナイカ、斯ウ云フヤウナ御質問デアッタト思ヒマス、是ハ負擔ノ均衡ヲ圖ル考デアッタノデハナイノデアリマス、負擔ノ均衡ト云フコトハ、非常ニ大事ナコトデアリマスカラ、政府ハ將來之ヲヤラウト思ッテ居リマス、之ニ對シテ目下研究中デアリマス、又例ノ借金ノ如キハ、是ハ森田君デモ今直チニドウニモナラヌト云フコトハ御承知ダラウト思ヒマス、ソレカラ外ニ新稅モアリマセウ、是ハ稅制ヲ整理スル時ニ考ヘルベキコトダト思ヒマス、ソレカラ政府ハ澤山國費ヲ使フンダカラ、三千万圓ヤソコノモノハ節約シテモ出テ來ルデハナイカ、斯ウ云フ御話デアリマスガ、政府ハ節約ノ出來ルモノハ既ニ節約ヲシ盡シテ居ルノデアリマス、ソレカラ次ハ臨時利得稅ヲ營業者ノミニ課スルノハイカヌデハナイカ、資本家カラ取ッタルドウカ、是ハ只今ノ所臨時利得稅ハ營業者ヨリ取ル考デ居リマス、ソレカラ銀行及砂糖會社ノ配當ノコトガアリマシタガ、是ハ私ハサッパリ承知シテ居リマセヌ、銀行ガドレダケノ配當ヲシテ居ルノヤラ、砂糖會社ガドレダケノ配當ヲシテ居ルノヤラ、私ニハ是ハ分リマセヌカラ、主務大臣ヨリ御答ヘサセマス、ソレカラ稅務署ノコトガアリマシタガ、稅務署ノ官吏ニハ適材ヲ適所ニ置クヤウニ注意シテ居ルノデアリマス、苛斂誅求ガアッテハナラヌノデアリ

マス、唯乾家ノ財產稅ガドウカト云フコトノ御話ガアリマシタガ、是ハ私承知シテ居リマセヌ、斯ウ云フコトヲ知ッテ居ラナケレバナラスノカモ知レマセヌケレドモ、私ハサウ云フコトハサッパリ承知シテ居リマセヌ、其後ノ御質問ハ法案ノ技術ノ上ノ御質問ダト思ヒマス、是ハ主務大臣カラ御答致シマス（拍手）

（國務大臣高橋是清君登壇）

○國務大臣（高橋是清君）

森田君ノ御質問ニ御答致シマス、先ヅ只今總理大臣ガ御答ニナラントシテ居ッテ御尋ノ中ノ、銀行ヤ製糖會社ノ配當ヲ成ベク多クセナイヤウニ、制限ヲスルヤウナコトヲシテ居ル、寧ろ是等ニ配當ヲ餘計サセレバ、即チ第三種ノ、株主ノ所得稅、其他ニ於テ歲入ガ殖エタルコトハ明デハナイカ、ソレヲ却テ銀行ヲシテ、或ハ砂糖會社ヲシテ成ベク高率ノ配當ヲシナイヤウニト云フコトヲ注意シテ居ル、ソレハ宜クナイト云フヤウナ譯デアリマス、抑、銀行ノ配當ニ付テハ、ツイ先達マデハ殆ド開店休業トカ云フヤウナ名ヲ付ケラレルマデニ、困難ナ立場ニ陥ッテ居ッタ、銀行ガ左様ナ困難ナ狀況ニ陥ルコトハ、廣ク一般ノ預金者ノ迷惑ニナルコトデアリマス、ソレ故ニ今日景氣ガ好イ時ニ、他日ノサウ云フ場合ニ於テ十分ニ耐ヘルダケノ力ヲ養ッテ置カナケレバナラス、全體ニ於テ銀行ノ基礎ヲ堅實ニシタガ宜カラウト云フ精神ヲ以テ、注意ヲ與ヘテ居ルニ過ギナイノデアアル、砂糖會社モ矢張同様ナ話デアリマシテ、隨分是ハ大キナ産業デアリマシテ、獨リ我國ノミナラズ、方々ノ國々ニ於テ砂糖ヲ生産スルコトニ於テハ生産費ヲ低下シ、品物ヲ良クスルト云フコトニ

皆競争シテヤッテ居ルノデアリマス、我ガ砂糖會社モ隨分不景氣ノ場合ニ於テハ、困難ニ陥ッタモノモアリマスルカラシテ、殊ニサウ云フモノニ對シテハ、今日マダ整理ノ十分届カヌモノモ或ハアルカモ知レヌ、兔ニ角今日ノ好景氣ニ處スルニハ、第一ニ株主ノ配當ヲ殖ヤスト云フヨリハ、其業ノ基礎ヲ堅實ニスル、堅固ニスル、サウシテ以テ株主ニ安心ヲ與ヘルト云フコトニ努メネバナラスト云フ趣意ヲ以テ、注意ヲ促シテ居ルニ過ギナイ、今一ツハ今度ノ利得稅ハ會社ニ課ケテ、サウシテ配當ヲ受クル株主ニハ及バナイ、株主ハ懷ロ手シテ利益ヲ得テ居ルニモ拘ラズ、其方ハ見通シテ置イテ、其會社ノ利益ニ課稅スルト云フノハ、不合理ダト云フヤウナ御説ガアッダヤウニ聞キマシタガ、會社ニ臨時利得稅ヲ課セルト云フコトハ、矢張株主ノ配當ニモ間接ニ影響ヲ持ツノデアリマス、ソレダケ株主ノ得ル所ノモノハ少クナルノデアリマス、而シテ其株主ノ受クル所ノモノハ、第三種ノ所得稅デアッテ、累進率ニ依ッテ配當ガ多ケレバ多イ程、ソレヨリ得ル所ノ國家ノ收入ハ殖エル譯ナノデアリマス

ソレカラ第一ニ此臨時利得稅ヲ課スルト云フコトハ、却テ國家ノ收入ノ減トナリハセヌカト云フ御考デアリマスルガ、只今ノ原案ニアリマスル如キ程度ノ臨時課稅デアリマスレバ、是ガ爲ニ國ノ收入ガ却テ減ルト云フコトハナイト信ジテ居ルノデス、サウ云フ考ハ持ッテ居リマセヌ

ソレカラ第二ニ營業ノミニ課稅スルノハ、ドウ云フ譯デアリカト云フコトデアアル、詰リ時局ノ好影響ヲ受ケテ居リマスルモノハ今日營業所得——即チ

〔副議長退席 議長著席〕

營業部門ニ屬スルモノニ多イノデアリマス、此好影響ヲ受ケテ居リマスモノハ、申セバ即チ軍需品工業、或ハ又輸出品工業ニ於テ他ノ業體ヨリハ此時勢ニ惠マレテ、殊ニ好結果ヲ得テ居ルノデアアル、即チ皆是等營業部門ニ屬スルノデアリマス、ソレ故ニ此臨時利得稅ヲ設ケルニ當ツテ、課稅ノ對象ト致シマスルモノハ、營利法人ヲ目的トシ、個人ハ其營業ノミニ利得ノ稅ヲ課スルト云フコトガ、相當デアルト認メタノデアリマス

第三ハ貨幣價值ノ異動ニ拘ラズ利益アリヤ、詰リ今日爲替相場方ヨリ見テ下ツテ居リマスカラ、ソレカラ思付キニナツテ、貨幣價值ノ異動ニ拘ラズ利益ガアルノカ、斯ウ云フ御尋ダラウト思ヒマス、之ニ對シテハ我國ノ貨幣ハ——今日ノ通貨ハ對外價值ニ付テハ相當ニ變動ガアリマスケレドモ、對內價值ニ於テハ大シタ變動ハナイノデアリマス

第四ニハ今總理大臣カラモ御答ニナツタヤウデアリマスガ、稅務官吏ガ誅求スルト云フ噂ガ度々聞エマスガ、先ヅ今日ノ所私ノ知ル限りデハ、左様ナコトハナイト御答ヲスルヨリ仕方ガナイ

第五ハ内地ト外地トノ間ニ不公平デハナイカト云フコトデアリマスガ、課稅上ノコトニ付テハ、内地外地ニ付テ、格別ノ不公平ガアルト云フコトニハ、思ツテ居リマセヌ、以上デ大略御問ニ對シテノ御答ガ盡キタト考ヘマス

○森田福市君 簡單デアリマスカラ……

○議長(濱田國松君) 之ヲ許可致シマス

○森田福市君 今ノ御答辯ハ總理大臣ノ御

答辯モ、大藏大臣ノ御答辯モ、一向私ノ質問ノ要旨ニハ副フテ居リマセヌ、總理大臣ハ此貸金ノ取立ヲシタ方ガ宜イデヤナイカト云フコトニ付テ、外國ヘノ貸金ト云フヤウニ御答ニナツタノデアリマスガ、私が申上ゲタノハ、露西亞ノ政變ガアツタ際、我國ノ輸出業者ノ連中ニ日本ノ政府ガ、日本ノ輸出業者ニ二億圓バカリ貸シテ決濟シタモノガ、今尙ホ取立テラレズニ貸金ニナツタ儘デアルデアリマセヌカ、アノ二億圓ヲ六七箇年賦取立テレバ此三四千萬圓ノ財源ハ、新稅ヲ設ケズトモ浮イテ來ルデアリマセヌカ、而モ此方面ノ人々ガ、今度ノ輸出貿易ナリ、或ハ此軍需景氣ニ依ツテ儲ケテ居ル人ト、同じウスルデアリマセヌカト、斯ウ云フ御質問ヲ申上ゲタノデアリマス、然ルニ總理大臣ハアレガ頭ニナイ、洵ニ私ハ困ツタモノデアルト思フガ、アノ程度ノコトハ一ツ頭ニ入レテ置イテ戴カナイト、本當ノ疑ヲ質ス譯ニ行カヌノデアリマス、私ノ申上ゲタコト、御答トハ、全然違フテ居ルノデアリマス、又今ノ大藏大臣ノ御答辯ノ、銀行ノ配當ヤ砂糖會社ノ配當ヲ抑ヘルコトハ、其業體自體ヲ好クスル爲ニ、株主ノ爲ニサウ云フ風ニヤツテ居ルト仰シヤルノデアリマスガ、ソレハ程度ノ問題デアリマス、從來ノヤウニ地方ニ小銀行ガ澤山アツテ、サウシタ場合ニ於ケル配當ノ如キ、銀行ガ薄弱ニナル虞ガアル時ニハ、左様ナコトモ適當デアリマセウガ、今日ハ所有有價證券ノ値上リナリ、其他ニ依ツテ莫大ナル利益ヲ藏シテ居ルノデアリマスカラ、斯ウ云フ場合ニハ矢張其當時ト同じヤウニ干涉ヲシテ、配當ヲ上ゲルコトヲ抑止サレルコトハ宜クナイト、斯様ニ私ハ申上ゲタノ

デ、砂糖會社ハ御承知ノ通りニ高率ノ關稅ノオ蔭デ、ア、云フ風ニ高い砂糖ノ利益ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスカラ、是等ハ社會政策ノ意味カラ言フテモ、配當ヲドシシテ、其株主ヲシテ色々ノモノ、購買ニ其金ヲ振向ケサセルコトガ、却テ適當デハナイカ、砂糖會社ニミ此砂糖ヲ消費スル人々ヨリ集メタ金ヲ散ジサセズニ置クト云フコトハ、産業ノ方面カラ論ジテモ、國庫ノ歲入カラ論ジテモ、當ヲ得タモノデハナイト私ハ申上ゲタノデアリマス、又苛斂誅求ヲスルト云フヤウナ、サウ云フ稅務官吏ハ居ラスト仰シヤツタガ、居ラスナラバ、私が例ニ引イタ乾ガ行政裁判所デ半額ニナツタノハ、アレハ苛斂誅求シテ居タノデハナイカ、アレ程具體的ニ明瞭ニナツテ居テモ、大藏大臣ガ知ラスト云フノハ、甚ダ私ハ遺憾ダト思フ、課稅ノ方法ガ誤ツテ居タレバこそ、行政裁判所デ半額以下ニ落チタデハアリマセヌカ、サウ云フモノ以外ニ——アレハ大キナモノデアルカラ新聞ニ出タノデアアルガ、地方ニハ小サイモノガ澤山アルノデアリマス、而モ苛斂誅求ヲサレテ、泣寝入ヲシテ居ル小サナ納入者ガアルコトヲ知ラナケレバナラス、彼ノ乾ノ如キ大富豪ハ、金デ爭ウテ勝ツコトガ出來ルデセウ、併シナガラ僅カナ稅金ヲ納メル者、ソレヲ爲スコトノ費用スラ持ツテ居ラヌヤウナ者ガ澤山アルノデアリマスカラ、此方面ニ相當ナ優遇ヲ與ヘテ、良イ稅務官吏ヲ置イテ、苛斂誅求ニ互ラスヤウニシナケレバナラスト思フガ、ドウデアアルカ、斯様ニ申上ゲタノデアリマス、又最後ノ、利得稅ヲ課セラル、人間ガ内地ニ居ッテ、朝鮮ヤ臺灣ヤ、樺太デ事業ヲヤレバ課稅ヲセラルルシ、外地ニ居ッテ、外地

デ事業ヲ行ヘバ課稅セラレヌヤウニナツテ居ルガ、是ハ不公平デハナイカト私ハ斯ウ問ウタノデアリマス、其意味ニ對シテノ答辯ハ要ヲ得テ居リマセヌ、併ナガラ私ハ今ノ答辯デハ全部満足スル譯ニハ參リマセヌカラ、委員會ニ於テモ詳細ニ御尋ネスルコトニシタイト思ヒマスカラ、敢テ答辯ノ追窮ハ致シマセズニ、私ノ質問ハ之ヲ以テ終リマス

○青木雷三郎君 本案ニ對スル殘餘ノ質疑ハ、他ノ日程ト共ニ延期シ次會ニ之ヲ繼續スルコト、シ、本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(濱田國松君) 青木君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(濱田國松君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ日程ハ公報ヲ以テ御通知申上ゲマス、本日は是ニテ散會

午後五時五分散會

